

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン オオサカダイガク 国立大学法人 大阪大学								
フリガナ大学の名称	オオサカダイガクダイガクイン 大阪大学大学院 (Graduate School of The University of Osaka)								
大学本部の位置	大阪府吹田市山田丘1番1号								
大学の目的	<p>大阪大学は、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、財界や市民の熱意ある活動の末、昭和6年に創設された。こうした創設の経緯から、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、社会に進んで門戸を開き、その多様性の中で、人類の理想を実現せんと努力する有為な人材を輩出するとともに、しなやかに実直に普遍の真理を見極め、世界最先端の学術研究の成果を社会に還元し続けてきた。また、本学の歴史の中で平成16年の国立大学法人化は大きな転換点であり、この国立大学法人としての新たな出発を見据え、本学は、平成15年に将来の豊かな発展を期して「大阪大学憲章」を制定した。この「大阪大学憲章」実装を目指す中で、本学の将来構想の卓越性、将来性は高く評価され、平成30年10月には指定国立大学法人に指定されるに至っている。</p> <p>大阪大学は、社会との対話により独自に制定した中長期的な経営ビジョンである「OU (Osaka University) マスタープラン」に掲げる「生きがいや育む社会」の創造に向けて、世界の社会的課題を解決し社会変革を先導する、新たな大学像を探索している。深刻な社会課題の解決に果敢に取り組み、新たな知と人材と最新のテクノロジーを導入し、様々な社会システム変革を通して「いのち」と「くらし」を守り、強靱で持続可能な未来社会を創造していくという使命の下、新価値創造と卓越した人材の育成・輩出に邁進し、社会変革に積極的に挑戦するために、研究、教育、共創の取組みをさらに推進する。</p>								
新設研究科等の目的	<p>情報科学は、現代社会のあらゆる学術分野や産業の基盤となり、AI・データ科学をはじめとする重要領域の進展により、その役割はますます拡大している。情報科学研究科では、こうした変化に対応し、国際的競争力を持つ人材育成と先端研究を推進するため、従来の小規模専攻を統合し、新たに「情報科学専攻」を設置する。本専攻は、情報・数理分野を大括り化することで、時代に応じた重要分野への柔軟な対応を可能とし、他分野との機動的な連携を可能にする柔軟な教育体制を構築する。旧来の専攻の枠を超えた統合的な教育体制のもと、情報科学分野の広い領域を横断的に、さらに基礎から応用までを縦断的に探求可能な教育を行う。</p> <p>これらの教育を通じて、データ科学や人工知能、システムアーキテクチャ、情報ネットワーク、セキュリティ、人間・生命情報工学、メディアインタラクション等の知識を基盤として、ハードウェアやソフトウェアを高度に利用し、社会に役立つ情報システムを設計、開発、活用し、情報分野の技術者、研究者、教育者として、近い将来世界の第一線で活躍できるようになる人材、また、広範な教養と倫理観を備え、専攻分野の発展に貢献できる主体性と実践力を持った人材を養成する。</p>								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	情報科学研究科 (The Graduate School of Information Science and Technology)	年	人	年次人	人	修士(情報科学) (Master of Information Science and Technology)	理学関係 工学関係	年 月 第 年次	大阪府吹田市 山田丘1番5号 大阪府豊中市 待兼山町1番3 2号
	情報科学専攻(M) (The Department of Information Science and Technology)	2	148	-	296	修士(工学) (Master of Engineering)		令和9年4 月 第1年次	
						修士(理学) (Master of Science)			

情報科学専攻 (D) (The Department of Information Science and Technology)	3	38	-	114	博士 (情報科 学) (Doctor of Philosophy in Information Science and Technology) 博士 (工学) (Doctor of Philosophy in Engineering) 博士 (理学) (Doctor of Philosophy) 博士 (学術) (Doctor of Philosophy)	理学関係 工学関係	令和9年4 月 第1年次	同上	
計		186	-	410					
同一設置者内における変 更 状 況 (定員の移行, 名称の変 更 等)	<p>○学生募集を停止する場合</p> <p><u>情報科学研究科</u></p> <p><u>情報数理学専攻博士前期課程 (廃止) (△20)</u></p> <p><u>情報数理学専攻博士後期課程 (廃止) (△5)</u></p> <p><u>コンピュータサイエンス専攻博士前期課程 (廃止) (△26)</u></p> <p><u>コンピュータサイエンス専攻博士後期課程 (廃止) (△6)</u></p> <p><u>情報システム工学専攻博士前期課程 (廃止) (△26)</u></p> <p><u>情報システム工学専攻博士後期課程 (廃止) (△7)</u></p> <p><u>情報ネットワーク学専攻博士前期課程 (廃止) (△26)</u></p> <p><u>情報ネットワーク学専攻博士後期課程 (廃止) (△7)</u></p> <p><u>マルチメディア工学専攻博士前期課程 (廃止) (△26)</u></p> <p><u>マルチメディア工学専攻博士後期課程 (廃止) (△7)</u></p> <p><u>バイオ情報工学専攻博士前期課程 (廃止) (△24)</u></p> <p><u>バイオ情報工学専攻博士後期課程 (廃止) (△6)</u></p>								
教育 課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報科学研究科 情報科学専攻 〔博士前期課程〕	54科目	5科目	7科目	66科目	30単位			
	情報科学研究科 情報科学専攻 〔博士後期課程〕	2科目	3科目	3科目	8科目	4単位			

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
		人	人	人	人	人	人	人
新 設 分	情報科学研究科 情報科学専攻 (博士前期課程)	24 (24)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	40 (40)
	情報科学研究科 情報科学専攻 (博士後期課程)	23 (24)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	47 (48)	0 (0)	25 (25)
	計	24 (24)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	- (-)
既 設 分	人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程)	23 (23)	12 (12)	2 (2)	4 (4)	41 (41)	0 (0)	13 (13)
	人文学研究科 人文学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	12 (12)	2 (2)	4 (4)	41 (41)	0 (0)	12 (12)
	人文学研究科 言語文化学専攻 (博士前期課程)	23 (23)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	52 (52)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 言語文化学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	52 (52)	0 (0)	0 (0)
	人文学研究科 外国学専攻 (博士前期課程)	38 (38)	31 (31)	34 (34)	9 (9)	112 (112)	0 (0)	7 (7)
	人文学研究科 外国学専攻 (博士後期課程)	38 (38)	25 (25)	11 (11)	1 (1)	75 (75)	0 (0)	3 (3)
	人文学研究科 日本学専攻 (博士前期課程)	28 (28)	20 (20)	4 (4)	6 (6)	58 (58)	0 (0)	7 (7)
	人文学研究科 日本学専攻 (博士後期課程)	28 (28)	20 (20)	4 (4)	5 (5)	57 (57)	0 (0)	6 (6)
	人文学研究科 芸術学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
	人文学研究科 芸術学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
	人間科学研究科 人間科学専攻 (博士前期課程)	37 (37)	28 (28)	14 (14)	17 (17)	96 (96)	0 (0)	15 (15)
	人間科学研究科 人間科学専攻 (博士後期課程)	37 (37)	28 (28)	14 (14)	17 (17)	96 (96)	0 (0)	15 (15)
	法学研究科 法学・政治学専攻 (博士前期課程)	21 (21)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	40 (40)
	法学研究科 法学・政治学専攻 (博士後期課程)	21 (21)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	40 (40)
	経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	25 (25)
	経済学研究科 経済学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	27 (27)
	経済学研究科 経営学系専攻 (博士前期課程)	10 (10)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	2 (2)	33 (33)
	経済学研究科 経営学系専攻 (博士後期課程)	10 (10)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	2 (2)	28 (28)
	理学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	9 (9)	38 (38)	0 (0)	32 (32)
	理学研究科 数学専攻 (博士後期課程)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	9 (9)	38 (38)	0 (0)	32 (32)
	理学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	45 (45)	1 (1)	57 (57)
	理学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	45 (45)	1 (1)	57 (57)
	理学研究科 化学専攻 (博士前期課程)	16 (16)	10 (10)	4 (4)	14 (14)	44 (44)	0 (0)	44 (44)
	理学研究科 化学専攻 (博士後期課程)	16 (16)	10 (10)	4 (4)	14 (14)	44 (44)	0 (0)	44 (44)
	理学研究科 生物科学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	4 (4)	3 (3)	11 (11)	27 (27)	0 (0)	51 (51)
	理学研究科 生物科学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	4 (4)	3 (3)	11 (11)	27 (27)	0 (0)	51 (51)
	理学研究科 高分子科学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	14 (14)
	理学研究科 高分子科学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	14 (14)
	理学研究科 宇宙地球科学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	26 (26)	0 (0)	7 (7)
	理学研究科 宇宙地球科学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	26 (26)	0 (0)	7 (7)
	医学系研究科 医学専攻 (博士課程)	82 (82)	92 (92)	106 (106)	382 (382)	662 (662)	1 (1)	42 (42)

医学系研究科 医学専攻 (修士課程)	16 (16)	12 (12)	16 (16)	54 (54)	98 (98)	0 (0)	36 (36)	
医学系研究科 保健学専攻 (博士前期課程)	30 (30)	14 (14)	2 (2)	19 (19)	65 (65)	0 (0)	24 (24)	
医学系研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	30 (30)	14 (14)	2 (2)	19 (19)	65 (65)	0 (0)	2 (2)	
歯学研究科 口腔科学専攻 (博士課程)	18 (18)	17 (17)	24 (24)	44 (44)	103 (103)	0 (0)	0 (0)	令和8年6月名称 変更届出 (予定)
薬学研究科 創薬科学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	4 (4)	1 (1)	7 (7)	20 (20)	0 (0)	45 (45)	
薬学研究科 創薬科学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	4 (4)	1 (1)	7 (7)	20 (20)	0 (0)	18 (18)	令和8年6月名称 変更届出 (予定)
薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)	6 (6)	7 (7)	5 (5)	8 (8)	26 (26)	0 (0)	39 (39)	令和8年6月名称 変更届出 (予定)
工学研究科 生物工学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	10 (10)	1 (1)	9 (9)	32 (32)	0 (0)	8 (8)	
工学研究科 生物工学専攻 (博士後期課程)	12 (12)	10 (10)	1 (1)	9 (9)	32 (32)	0 (0)	4 (4)	
工学研究科 応用化学専攻 (博士前期課程)	22 (22)	18 (18)	4 (4)	16 (16)	60 (60)	0 (0)	7 (7)	
工学研究科 応用化学専攻 (博士後期課程)	22 (22)	18 (18)	4 (4)	16 (16)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	
工学研究科 物理学系専攻 (博士前期課程)	18 (18)	13 (13)	3 (3)	14 (14)	48 (48)	0 (0)	5 (5)	
工学研究科 物理学系専攻 (博士後期課程)	18 (18)	13 (13)	3 (3)	14 (14)	48 (48)	0 (0)	4 (4)	
工学研究科 機械工学専攻 (博士前期課程)	23 (23)	12 (12)	4 (4)	12 (12)	51 (51)	0 (0)	5 (5)	
工学研究科 機械工学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	12 (12)	4 (4)	12 (12)	51 (51)	0 (0)	0 (0)	
工学研究科 マテリアル生産科学専攻 (博士前期課程)	26 (26)	25 (25)	5 (5)	11 (11)	67 (67)	0 (0)	20 (20)	
工学研究科 マテリアル生産科学専攻 (博士後期課程)	26 (26)	25 (25)	5 (5)	11 (11)	67 (67)	0 (0)	0 (0)	
工学研究科 電気電子情報通信工学専攻 (博士前期課程)	40 (40)	31 (31)	5 (5)	18 (18)	94 (94)	0 (0)	17 (17)	
工学研究科 電気電子情報通信工学専攻 (博士後期課程)	40 (40)	31 (31)	5 (5)	18 (18)	94 (94)	0 (0)	14 (14)	
工学研究科 環境エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	16 (16)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	42 (42)	0 (0)	10 (10)	
工学研究科 環境エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	16 (16)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	42 (42)	0 (0)	0 (0)	
工学研究科 地球総合工学専攻 (博士前期課程)	20 (20)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	48 (48)	0 (0)	4 (4)	
工学研究科 地球総合工学専攻 (博士後期課程)	20 (20)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	48 (48)	0 (0)	2 (2)	
工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)	
工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 (博士後期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
基礎工学研究科 物質創成専攻 (博士前期課程)	26 (26)	23 (23)	2 (2)	23 (23)	74 (74)	0 (0)	44 (44)	
基礎工学研究科 物質創成専攻 (博士後期課程)	26 (26)	23 (23)	2 (2)	23 (23)	74 (74)	0 (0)	44 (44)	
基礎工学研究科 機能創成専攻 (博士前期課程)	14 (14)	7 (7)	3 (3)	15 (15)	39 (39)	0 (0)	44 (44)	
基礎工学研究科 機能創成専攻 (博士後期課程)	14 (14)	7 (7)	3 (3)	15 (15)	39 (39)	0 (0)	44 (44)	
基礎工学研究科 システム創成専攻 (博士前期課程)	23 (23)	16 (16)	5 (5)	18 (18)	62 (62)	0 (0)	44 (44)	
基礎工学研究科 システム創成専攻 (博士後期課程)	23 (23)	16 (16)	5 (5)	18 (18)	62 (62)	0 (0)	44 (44)	
国際公共政策研究科 国際公共政策専攻 (博士前期課程)	6 (6)	7 (7)	0 (0)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	36 (36)	
国際公共政策研究科 国際公共政策専攻 (博士後期課程)	6 (6)	7 (7)	0 (0)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	11 (11)	

国際公共政策研究科 比較公共政策専攻 (博士前期課程)	10 (10)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	36 (36)	
国際公共政策研究科 比較公共政策専攻 (博士後期課程)	10 (10)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	11 (11)	
情報科学研究科 情報基礎数学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	11 (11)	
情報科学研究科 情報基礎数学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	
生命機能研究科 生命機能専攻 (博士課程)	21 (21)	28 (28)	2 (2)	23 (23)	74 (74)	0 (0)	54 (54)	
高等司法研究科 法務専攻 (法科大学院)	19 (19)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	110 (110)	
大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所 小児発達学専攻 (博士前期課程)	13 (13)	5 (5)	4 (4)	32 (32)	54 (54)	0 (0)	102 (102)	
大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所 小児発達学専攻 (博士後期課程)	17 (17)	7 (7)	4 (4)	32 (32)	60 (60)	0 (0)	95 (95)	
計	746 (746)	563 (563)	258 (258)	787 (787)	2,354 (2,354)	5 (5)	- (-)	
合計	770 (770)	587 (587)	258 (258)	787 (787)	2,402 (2,402)	5 (5)	- (-)	
職 種	専 属			そ の 他		計		
事 務 職 員	991 (991)			2,090 (2,090)		3,081 (3,081)		
技 術 職 員	187 (187)			673 (673)		860 (860)		
図 書 館 職 員	44 (44)			65 (65)		109 (109)		
そ の 他 の 職 員	1,536 (1,536)			409 (409)		1,945 (1,945)		
指 導 補 助 者	0 (0)			3,156 (3,156)		3,156 (3,156)		
計	2,758 (2,758)			6,393 (6,393)		9,151 (9,151)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	958,961㎡	0㎡	0㎡		958,961㎡		
	そ の 他	480,768㎡	0㎡	0㎡		480,768㎡		
	合 計	1,439,729㎡	0㎡	0㎡		1,439,729㎡		
校 舎	専 用	689,200㎡ (689,200㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		689,200㎡ (689,200㎡)		
	講義室	302室	226室	176室		48室		講義室、実験・実習室、演習室は大学全体の数(新設研究科等の専任教員研究室については情報科学研究科の数)
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数(機械・器具・標本については情報科学研究科の数)
	大学全体	3,720,367 [1,807,906] (3,720,367 [1,807,906])	41,750 [34,700] (41,750 [34,700])	108,671 [70,857] (108,671 [70,857])	36,207 [34,600] (36,207 [34,600])	1,019 (1,019)	0 (0)	
	計	3,720,367 [1,807,906] (3,720,367 [1,807,906])	41,750 [34,700] (41,750 [34,700])	108,671 [70,857] (108,671 [70,857])	36,207 [34,600] (36,207 [34,600])	1,019 (1,019)	0 (0)	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費による
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	
		共同研究費等	-	-	-	-	-	
		図書購入費	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
学生納付金以外の維持方法の概要	該当なし							

既設 大学等 の 状況	大 学 等 の 名 称		国立大学法人 大阪大学					開設 年度	所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	取 容 定 員 充 足 率			
	文学部	4	165	-	660		1.14 《1.06》	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番5号	
	人文学科	4	165	-	660	学士(文学)	1.14 《1.06》			
	人間科学部	4	137	3年次 10	568		1.09 《1.06》	平成20	大阪府吹田市 山田丘1番2号	
	人間科学科	4	137	3年次 10	568	学士(人間科学)	1.09 《1.06》			
	外国語学部	4	580	3年次 10	2,340		1.20 《1.02》	平成20	大阪府箕面市船場 東3丁目5番10号	
	外国語学科	4	580	3年次 10	2,340	学士(言語・文化)	1.20 《1.02》			
	法学部	4	250	3年次 10	1,020		1.08 《1.02》	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番6号	
	法学科	4	170	3年次 10	700	学士(法学)	1.06 《1.00》			
	国際公共政策学科	4	80	-	320	学士(法学)	1.13 《1.05》	平成20		
	経済学部	4	220	3年次 10	900		1.09 《1.03》	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番7号	
	経済・経営学科	4	220	3年次 10	900	学士(経済学)	1.09 《1.03》			
	理学部	4	255	-	1,020		1.11 《1.06》	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番1号	
	数学科	4	47	-	188	学士(理学)	1.18 《1.08》			
	物理学科	4	76	-	304	学士(理学)	1.10 《1.06》	平成20		
	化学科	4	77	-	308	学士(理学)	1.09 《1.06》	平成20		
	生物科学科	4	55	-	220	学士(理学)	1.09 《1.05》	平成20		
	医学部	6・4	258	2年次 10	1,282		-	平成20	大阪府吹田市 山田丘2番2号	令和7年度入学定員 変更(95→98※単年 度の暫定増員) 令和5,6年度入学定 員変更(95→97※単 年度の暫定増員) 令和2~4年度入学 定員変更 (95→100※単年度
	医学科	6	98	2年次 10	642	学士(医学)	1.01 《0.99》			
	保健学科	4	160	-	640		1.03 《1.02》	平成20	大阪府吹田市 山田丘1番7号	
	看護学専攻	4	80	-	320	学士(看護学)	1.02 《1.00》			
	放射線技術科学 専攻	4	40	-	160	学士(保健衛生学)	1.00 《1.00》			
	検査技術科学 専攻	4	40	-	160	学士(保健衛生学)	1.08 《1.08》			
	歯学部	6	53	-	318		1.05 《1.00》	平成20	大阪府吹田市 山田丘1番8号	
	歯学科	6	53	-	318	学士(歯学)	1.05 《1.00》			
	薬学部	6	80	-	480		1.05 《1.00》	平成20	大阪府吹田市 山田丘1番6号	
	薬学科	6	80	-	480	学士(薬学)	1.05 《1.00》			
	工学部	4	853	3年次 12	3,337		1.07 《1.03》	平成20	大阪府吹田市 山田丘2番1号	
	応用自然科学科	4	222	3年次 3	879	学士(工学)	1.06 《1.02》			令和7年入学定 員増(217→ 222)
	応用理工学科	4	248	3年次 3	998	学士(工学)	1.08 《1.02》	平成20		
	電子情報工学科	4	190	3年次 6	688	学士(工学)	1.09 《1.04》	平成20		令和7年入学定 員増(162→ 190)
	環境・エネルギー 工学科	4	75	-	300	学士(工学)	1.08 《1.04》	平成20		
	地球総合工学科	4	118	-	472	学士(工学)	1.07 《1.03》	平成20		

基礎工学部	4	462	3年次 8	1,783		1.08 《1.02》		大阪府豊中市 待兼山町1番3号	
電子物理科学科	4	103	-	400	学士(工学)	1.12 《1.04》	平成20		令和7年入学定員増(99→103)
化学応用科学科	4	84	-	336	学士(工学)	1.07 《1.00》	平成20		
システム科学科	4	174	3年次 8	697	学士(工学)	1.06 《1.01》	平成20		令和7年入学定員増(169→174)
情報科学科	4	101	-	350	学士(工学)	1.10 《1.04》	平成20		令和7年入学定員増(83→101)
人文学研究科									
人文学専攻								大阪府豊中市 待兼山町1番5号	
博士前期課程	2	47	-	94	修士(文学) 修士(学術)	0.75	令和4		
博士後期課程	3	14	-	42	博士(文学) 博士(学術)	1.19	令和4		
言語文化学専攻								大阪府豊中市 待兼山町1番8号	
博士前期課程	2	32	-	64	修士(言語文化学) 修士(学術)	1.21	令和4		
博士後期課程	3	15	-	45	博士(言語文化学) 博士(学術)	1.40	令和4		
外国学専攻								大阪府箕面市船場 東3丁目5番10号	
博士前期課程	2	25	-	50	修士(言語文化学) 修士(学術)	1.38	令和4		
博士後期課程	3	11	-	33	博士(言語文化学) 博士(学術)	0.66	令和4		
日本学専攻								大阪府豊中市 待兼山町1番5号 大阪府箕面市船場 東3丁目5番10号	
博士前期課程	2	40	-	80	修士(文学) 修士(日本語・ 日本文化) 修士(学術)	1.12	令和4		
博士後期課程	3	18	-	54	博士(文学) 博士(日本語・ 日本文化) 博士(学術)	1.29	令和4		
芸術学専攻								大阪府豊中市 待兼山町1番5号	
博士前期課程	2	17	-	34	修士(文学) 修士(学術)	1.35	令和4		
博士後期課程	3	7	-	21	博士(文学) 博士(学術)	2.28	令和4		
文学研究科								大阪府豊中市 待兼山町1番5号	
文化形態論専攻									
博士後期課程	3	-	-	-	博士(文学)	-	平成20		令和4年度より 学生募集停止
文化表現論専攻									
博士後期課程	3	-	-	-	博士(文学)	-	平成20		令和4年度より 学生募集停止

文化動態論専攻													
修士課程	2	-	-	-	修士(文学)	-	平成20						令和4年度より 学生募集停止
人間科学研究科													
人間科学専攻													
博士前期課程	2	89	-	178	修士(人間科学)	1.15	平成28						
博士後期課程	3	42	-	126	博士(人間科学)	1.34	平成28						
法学研究科													
法学・政治学専攻													
博士前期課程	2	35	-	70	修士(法学)	0.94	平成20						
博士後期課程	3	12	-	36	博士(法学)	1.25	平成20						
経済学研究科													
経済学専攻													
博士前期課程	2	55	-	110	修士(経済学) 修士(応用経済学)	1.05	平成24						
博士後期課程	3	20	-	60	博士(経済学) 博士(応用経済学)	0.93	平成26						
政策専攻													
博士後期課程	3	-	-	-	博士(応用経済学)	-	平成20						平成26年度より 学生募集停止
経営学系専攻													
博士前期課程	2	28	-	56	修士(経済学) 修士(経営学)	1.00	平成20						
博士後期課程	3	5	-	15	博士(経済学) 博士(経営学)	2.06	平成20						
理学研究科													
数学専攻													
博士前期課程	2	32	-	64	修士(理学)	0.89	平成20						
博士後期課程	3	16	-	48	博士(理学)	0.56	平成20						
物理学専攻													
博士前期課程	2	68	-	136	修士(理学)	1.29	平成20						
博士後期課程	3	33	-	99	博士(理学)	0.75	平成20						
化学専攻													
博士前期課程	2	60	-	120	修士(理学)	1.10	平成20						
博士後期課程	3	30	-	90	博士(理学)	0.75	平成20						
生物科学専攻													
博士前期課程	2	54	-	108	修士(理学)	1.16	平成20						
博士後期課程	3	23	-	69	博士(理学)	1.04	平成20						

システム創成専攻												
博士前期課程	2	95	-	190	修士(工学) 修士(学術)	1.18	平成20					
博士後期課程	3	24	-	72	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	1.59	平成20					
言語文化研究科												
言語文化専攻												
博士前期課程	2	-	-	-	修士(言語文化学)	-	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番8号				令和4年度より 学生募集停止
博士後期課程	3	-	-	-	博士(言語文化学)	-	平成20					令和4年度より 学生募集停止
言語社会専攻												
博士前期課程	2	-	-	-	修士(言語文化学)	-	平成20	大阪府箕面市船場 東3丁目5番10号				令和4年度より 学生募集停止
博士後期課程	3	-	-	-	博士(言語文化学)	-	平成20					令和4年度より 学生募集停止
日本語・日本文化 専攻												
博士後期課程	3	-	-	-	博士(日本語・ 日本文化)	-	平成24					令和4年度より 学生募集停止
国際公共政策研究科												
国際公共政策専攻												
博士前期課程	2	19	-	38	修士(国際公共政策)	1.21	平成20	大阪府豊中市 待兼山町1番31号				
博士後期課程	3	11	-	33	博士(国際公共政策) 博士(法学) 博士(経済学)	0.72	平成20					
比較公共政策専攻												
博士前期課程	2	16	-	32	修士(国際公共政策)	1.03	平成20					
博士後期課程	3	10	-	30	博士(国際公共政策) 博士(法学) 博士(経済学)	0.86	平成20					
情報科学研究科												
情報基礎数学専攻												
博士前期課程	2	12	-	24	修士(情報科学) 修士(理学) 修士(工学)	1.08	平成20	大阪府吹田市 山田丘1番5号 大阪府豊中市 待兼山町1番32号				
博士後期課程	3	5	-	15	博士(情報科学) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.66	平成20					
情報数理学専攻												
博士前期課程	2	20	-	40	修士(情報科学) 修士(理学) 修士(工学)	0.85	平成20					
博士後期課程	3	5	-	15	博士(情報科学) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.33	平成20					

コンピュータサイエンス専攻										
博士前期課程	2	26	-	52	修士 (情報科学) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.17	平成20			
博士後期課程	3	6	-	18	博士 (情報科学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.27	平成20			
情報システム工学専攻										
博士前期課程	2	26	-	52	修士 (情報科学) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.23	平成20			
博士後期課程	3	7	-	21	博士 (情報科学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.61	平成20			
情報ネットワーク学専攻										
博士前期課程	2	26	-	52	修士 (情報科学) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.44	平成20			
博士後期課程	3	7	-	21	博士 (情報科学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.28	平成20			
マルチメディア工学専攻										
博士前期課程	2	26	-	52	修士 (情報科学) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.07	平成20			
博士後期課程	3	7	-	21	博士 (情報科学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.52	平成20			
バイオ情報工学専攻										
博士前期課程	2	24	-	48	修士 (情報科学) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.12	平成20			
博士後期課程	3	6	-	18	博士 (情報科学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.55	平成20			
生命機能研究科										大阪府吹田市 山田丘1番3号
生命機能専攻										
博士課程	5	55	-	275	修士 (生命機能学) 修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (生命機能学) 博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.89	平成20			
高等司法研究科										大阪府豊中市 待兼山町1番6号
法学専攻										
専門職学位課程	3	80	-	240	法務博士 (専門職)	0.87	平成20			大阪府吹田市 山田丘2番2号
大阪大学・金沢大学・ 浜松医科大学・千葉大 学・福井大学連合小児 発達学研究所										

小児発達学専攻									
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (小児発達学)	1.03	令和6		
博士後期課程	3	15	-	45	博士 (小児発達学)	1.68	平成24		
附属施設の概要	<p>名称：医学部附属病院 目的：患者の診療を通じて医学の教育と研究を行う。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-15 設置年月：昭和6年5月 規模等：土地16,822㎡ 建物105,962㎡</p> <p>名称：医学部附属動物実験施設 目的：医学系研究科及び医学部（以下「研究科等」という。）における実験動物の飼育管理並びに学内における動物実験に関する教育訓練、実験動物の系統保存・供給及び凍結胚保存を行うとともに、研究科等における動物実験及び学内における疾患関連遺伝子動物実験につき研究者の利用に供することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-2 設置年月：昭和61年4月 規模等：土地1,147㎡ 建物6,348㎡</p> <p>名称：歯学部附属病院 目的：患者の診療を通じて歯科医学の教育と研究を行う。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-8 設置年月：昭和28年8月 規模等：土地50,466㎡ 建物16,090㎡ （注）土地は歯学部附属病院を含んだ歯学部・歯学研究科全体の面積。</p> <p>名称：歯学部附属歯科技工士学校 目的：歯科技工士法(昭和30年法律第168号)第14条第1号の規定に基づき、歯科技工士として必要な知識及び技能を授けることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-8 設置年月：昭和35年4月 規模等：土地50,466㎡ 建物397㎡ （注）土地は歯学部附属歯科技工士学校を含んだ歯学部・歯学研究科全体の面積。</p> <p>名称：人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター 目的：多様な文化的・言語的背景を持つ子どもたちが、自分の言語や背景を活用し、ルーツに誇りを持って成長できるように、地域社会、地方自治体、学校の取り組みに対するサポートを通して、言語間や文化間、人と人との仲介者としての役割を果たし、社会課題の解決を目的とする。 所在地：大阪府箕面市船場東 3-5-10 設置年月：令和5年4月 規模等：土地39㎡ 建物39㎡</p> <p>名称：人間科学研究科附属未来共創センター 目的：学内及び国内外の教育研究機関等との連携の結節点としての役割を担うとともに多様な人材の活用により、新たな融合的学問領域の展開並びに学際的及び実践的な教育研究活動の強化を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-2 設置年月：平成28年4月 規模等：土地1,161㎡ 建物129㎡</p> <p>名称：人間科学研究科附属比較行動実験施設 目的：行動の系統発生的及び個体発生的な比較研究並びにこれに必要な実験を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-2 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地576㎡ 建物576㎡</p>								

<p>名称：理学研究科附属熱・エントロピー科学研究センター 目的：熱、エントロピー測定による精密熱科学の展開と、新しい熱測定手法の開発を目指すとともに、積極的な国際連携研究を行うことを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-1 設置年月：平成31年4月 規模等：土地258㎡ 建物530㎡</p>	
<p>名称：理学研究科附属フォアフロント研究センター 目的：専攻から独立した教育研究施設として、専攻、部局及び大学の枠を超えた新たな分野横断型研究並びに挑戦的・独創的研究の開拓及び展開並びに新たな学問領域の開拓等の最先端の基礎研究・学術的研究を個人研究やプロジェクト研究により推進するとともに、これらの研究に係る産学官連携を推進することを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-1 設置年月：令和4年4月 規模等：土地754㎡ 建物3,112㎡ （注）土地・建物は理学研究科附属フォアフロント研究センターを含んだ教育研究交流棟（理学J棟）の面積。</p>	
<p>名称：理学研究科附属先端強磁場科学研究センター 目的：超強磁場研究の将来を担う人材の育成を図るとともに、学内及び国内外の教育研究機関との共同研究を推進することにより、超強磁場、超高圧及び極低温の複合極限実験環境の創成を目指すことを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-1 設置年月：平成26年4月 規模等：土地1,740㎡ 建物1,050㎡</p>	
<p>名称：医学系研究科附属共同研究実習センター 目的：医学系研究科における高度な医学研究・教育用設備機器類を総合的に配置し、医学研究・教育の向上と充実を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘2-2 設置年月：昭和62年5月 規模等：土地1,284㎡ 建物1,526㎡</p>	
<p>名称：医学系研究科附属ツインリサーチセンター 目的：双生児を対象に、人間の健康問題に関与する環境因子を解明し、予防医学の進展に寄与することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘1-7 設置年月：平成21年4月 規模等：土地25,957㎡ 建物4,390㎡</p>	
<p>名称：医学系研究科附属未来医療イメージングセンター 目的：医学系研究科における放射線施設の安全管理及び放射性同位元素等を用いた教育研究を推進するとともに、PET(Positron Emission Tomography)による分子イメージング研究の向上と充実を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘2-2 設置年月：平成28年6月 規模等：土地2,098㎡ 建物2,181㎡</p>	
<p>名称：医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター 目的：産学官連携及びライフイノベーションを推進し、生体に備わる免疫系及び再生系に関する最先端的融合研究を結集させ、世界に類を見ない医薬等の融合療法を開発する拠点を整備することにより、健康社会の実現と地域経済の活性化を推進することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘2-2 設置年月：平成26年4月 規模等：土地2,317㎡ 建物11,170㎡</p>	
<p>名称：医学系研究科附属次のいのちを守る人材育成教育研究センター 目的：次のいのちを守るべく人材育成教育研究拠点を形成し、死因究明等に関する課題解決に取り組むとともに、国内における死因究明等に携わる人材を育成することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘2-2 設置年月：令和5年10月 規模等：土地2,080㎡ 建物21㎡</p>	

<p>名称：歯学研究科附属口腔科学フロンティアセンター 目的：高度先端口腔科学の研究及び教育の遂行に資するため、高度な歯学研究・教育用設備機器類を総合的に配置し、歯学研究・教育の向上と充実を図り、歯学研究科の教員その他の者の共同利用の促進を図るとともに、学際センターとしての中心的な役割を果たすことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-8 設置年月：平成23年7月 規模等：土地50,466㎡ 建物672㎡ （注）土地は歯学研究科附属口腔科学フロンティアセンターを含んだ歯学部・歯学研究科全体の面積。</p>	
<p>名称：薬学研究科附属薬用植物園 目的：園内に薬用植物を栽培して、学術研究及び教育に資することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-6 設置年月：昭和49年4月 規模等：土地680㎡ 建物960㎡</p>	
<p>名称：工学研究科附属精密工学研究センター 目的：物理・化学現象を原子・電子論的立場から思考する原子論的生産技術を継続的に創造し、これを基盤に工学研究科の新規な技術シーズを具現化して社会に還元する独創的な最先端生産技術を開発するとともに、その成果を世界に発信する創造性豊かな卓越した中核的研究拠点として、精密工学の基礎と応用の研究及び教育を遂行することを目的とする 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-1 設置年月：令和3年4月 規模等：土地997㎡ 建物1,012㎡</p>	
<p>名称：工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター 目的：材料工学の将来を担う国際性及び創造性を備えた若手人材の育成を図るとともに、学内及び国内外の教育研究機関との金属材料を主とした材料科学分野に関する共同研究を推進することにより、大阪大学を当該分野における教育研究の世界的拠点として発展させることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-1 設置年月：平成20年4月 規模等：土地28㎡ 建物28㎡</p>	
<p>名称：工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター 目的：工学研究科の領域横断型の研究教育の拠点として、社会課題及びニーズに対応しつつ、未来社会に向けたイノベーション創出につながる新たな学術領域の開拓及びこれらの領域を牽引する次世代リーダーの育成を促進することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-1 設置年月：令和2年4月 規模等：土地199㎡ 建物271㎡</p>	
<p>名称：工学研究科附属フォトニクスセンター 目的：工学研究科のフォトニクスに関する研究及び人材育成の拠点として、異分野融合を推進するとともに、産業の基盤となるフォトニクス研究の強化並びに産学官連携によるオープンイノベーション及び社会実装を実践することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-1 設置年月：平成29年4月 規模等：土地1,029㎡ 建物4,990㎡</p>	
<p>名称：基礎工学研究科附属極限科学センター 目的：極限環境の生成及び計測による物質科学研究の深化並びにこれに基づく新材料及び新規デバイス・システムの創出を目指すとともに、共同研究を通じた国際的な研究を展開することを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町 1-3 設置年月：平成26年4月 規模等：土地6,467㎡ 建物29,133㎡ （注）土地・建物は基礎工学研究科附属極限科学センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。</p>	
<p>名称：基礎工学研究科附属未来研究推進センター 目的：領域横断及び異分野融合による萌芽研究を推進するとともに、他機関との研究連携を積極的に行い、新しい学術領域を創成することを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町 1-3 設置年月：平成26年4月 規模等：土地6,467㎡ 建物29,133㎡ （注）土地・建物は基礎工学研究科附属未来研究推進センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。</p>	

<p>名 称：基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センター 目的：国内外との共同利用・共同研究プロジェクトを通じて、世界トップレベルにある日本のスピントロニクス研究の国際競争力のさらなる向上、新産業の創成、現産業の強化及び人材育成プログラムの企画・実施により、地球規模の全人類の課題の解決及び独創性あふれる次世代研究者の育成を図ることを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-3 設置年月：平成28年4月 規模等：土地6,467㎡ 建物29,133㎡ (注)土地・建物は基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。</p>
<p>名 称：基礎工学研究科附属産学連携センター 目的：基礎工学研究科の研究成果を広く社会に展開するため、産業界と連携するとともに、教育面での交流を通して、研究者及び高度技術者の人材育成を図ることを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-3 設置年月：平成29年4月 規模等：土地6,467㎡ 建物29,133㎡ (注)土地・建物は基礎工学研究科附属産学連携センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。</p>
<p>名 称：基礎工学研究科附属太陽エネルギー化学研究センター 目的：太陽エネルギーによる化学的な変換を研究するとともに、新しい太陽エネルギーの利用技術の開発を推進することを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-3 設置年月：令和3年4月 規模等：土地291㎡ 建物528㎡</p>
<p>名 称：大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター 目的：子どものこころの発達に関する新しい診断法、治療法及び教育方法の開発を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘2-2 設置年月：平成22年4月 規模等：土地997,110㎡ 建物42㎡ (注)土地は大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センターを含んだ吹田地区の面積。</p>
<p>名 称：微生物病研究所 目的：微生物病及びがんその他の特定の難治疾患に関する学理並びにその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地8,702㎡ 建物39,945㎡</p>
<p>名 称：微生物病研究所附属感染動物実験施設 目的：感染、発癌その他の研究に必要な動物実験を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地1,626㎡ 建物4,901㎡</p>
<p>名 称：微生物病研究所附属難治感染症対策研究センター 目的：難治感染症に対する病原体の同定、ワクチン開発、感染病態の解析及び治療法の開発研究を行うとともに、病原性微生物の保存を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：平成17年4月 規模等：土地3,751㎡ 建物985㎡</p>
<p>名 称：微生物病研究所附属バイオインフォマティクスセンター 目的：学内外のバイオインフォマティクス研究者を集結させ、ビッグデータの学内外での共有体制を整えることによって最先端の共同研究及び異分野融合研究を推進するとともに、次世代を担う人材の育成を図る「バイオインフォマティクス総合教育研究プラットフォーム」を形成することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：令和5年5月 規模等：土地409㎡ 建物945㎡</p>

<p>名 称：微生物病研究所附属感染症国際研究センター 目的：北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、東京大学医科学研究所附属感染症国際研究センター及び長崎大学熱帯医学研究所と連携し、感染症に対する先端的な医学・生物学の研究を行うとともに、感染症研究者の養成を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：平成17年4月 規模等：土地2,679㎡ 建物723㎡</p>	
<p>名 称：産業科学研究所 目的：自然科学に関する特殊事項で産業に必要なものの基礎的学理及びその応用の研究を目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 設置年月：昭和14年4月 規模等：土地10,582㎡ 建物37,985㎡</p>	
<p>名 称：産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター 目的：ナノテクノロジーに特化した研究を格段に推進することを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 設置年月：平成14年4月 規模等：土地1,132㎡ 建物6,254㎡</p>	
<p>名 称：産業科学研究所附属総合解析センター 目的：材料科学、情報科学及び生体科学に関する各種の分析及び測定を行うとともに、その周辺技術に関する研究を行うことを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 設置年月：平成21年4月 規模等：土地324㎡ 建物969㎡</p>	
<p>名 称：産業科学研究所附属量子ビーム科学研究施設 目的：量子ビームを用いた研究及びその関連基盤研究を推進し、電子線形加速器、コバルト60ガンマ線照射装置等の放射線関連設備の運営、維持及び運転並びに放射線安全管理を行うことを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 設置年月：平成21年4月 規模等：土地1,909㎡ 建物4,226㎡</p>	
<p>名 称：蛋白質研究所 目的：化学、生物、物理、医学などの様々な学問分野を基礎として、蛋白質の構造と機能の基礎的研究を行い、それらに立脚してさまざまな高次生命機能を分子及び原子レベルで明らかにすることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-2 設置年月：昭和33年4月 規模等：土地32,000㎡ 建物9,003㎡</p>	
<p>名 称：社会経済研究所 目的：社会が直面する様々な経済問題について世界中の経済学研究機関と競争かつ協調しながら世界トップレベルの理論的・実証的研究、政策分析、経済実験を行い、研究の過程で得られた新たな知見を広く国際社会に還元し、経済政策や制度設計に貢献することを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘6-1 設置年月：昭和37年4月 規模等：土地7,978㎡ 建物2,996㎡</p>	
<p>名 称：接合科学研究所 目的：溶接・接合技術に関する基礎・応用研究を行うとともに、学内、他の大学及び研究機関の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘11-1 設置年月：昭和47年5月 溶接工学研究所として設置、平成8年4月 接合科学研究所に改組 規模等：土地36,111㎡ 建物9,018㎡</p>	

<p>名称：接合科学研究所附属多次元造形研究センター 目的：多次元造形科学と技術の新たな構築に関する基礎研究及び応用研究を行うことを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美徳ヶ丘 1 1 - 1 設置年月：令和4年4月 規模等：土地36,111㎡ 建物2,654㎡ (注) 土地は接合科学研究所附属多次元造形研究センターを含んだ接合科学研究所の面積。</p>	
<p>名称：レーザー科学研究所 目的：レーザー科学の基礎及び応用に関する研究及び教育を行うとともに、大学及び研究機関等の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2 - 6 設置年月：平成29年5月 規模等：土地43,785㎡ 建物26,731㎡</p>	
<p>名称：附属図書館 目的：大阪大学の教育研究及び学習に必要な図書、学術雑誌、電子資料その他の学術情報資料を収集、整理、保存及び提供を行うことにより、本学における教育研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的とする。 所在地：(総合図書館) 大阪府豊中市待兼山町 1 - 4 (生命科学図書館) 大阪府吹田市山田丘 2 - 3 (理工学図書館) 大阪府吹田市山田丘 2 - 1 (外国学図書館) 大阪府箕面市船場東 3 丁目 1 0 - 1 設置年月：(総合図書館) 昭和6年5月 (生命科学図書館) 平成4年4月 (理工学図書館) 昭和45年10月 (外国学図書館) 令和3年5月 規模等：(総合図書館) 土地4,668㎡ 建物20,218㎡ (生命科学図書館) 土地1,789㎡ 建物5,884㎡ (理工学図書館) 土地1,851㎡ 建物5,214㎡ (外国学図書館) 土地7,529㎡ 建物7,680㎡</p>	
<p>名称：超高压電子顕微鏡センター 目的：超高压電子顕微鏡及びその関連設備を整備運用して、超高压電子顕微鏡による応用研究及びその周辺技術の開発を共同的に推進することを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美徳ヶ丘 7 - 1 設置年月：昭和49年4月 規模等：土地2,041㎡ 建物3,976㎡</p>	
<p>名称：環境安全研究管理センター 目的：環境保全及び安全管理に関する研究及び教育を行うとともに、環境保全及び安全管理対策を立案し、実施することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2 - 4 設置年月：平成16年4月 規模等：土地292㎡ 建物559㎡</p>	
<p>名称：国際教育交流センター 目的：学内共同教育研究施設として、国際教育及び国際交流に関する企画及び運営に参画するとともに、国際教育及び国際交流の実践並びにこれらに関連するテーマに係る調査及び研究を通じて大阪大学の国際化を推進することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1 - 1 設置年月：平成22年4月 規模等：土地854㎡ 建物1,225㎡</p>	
<p>名称：生物学国際交流センター 目的：生物学の基礎と応用に関する研究を行うとともに、これに関連する領域について諸外国との学術交流を推進することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2 - 1 設置年月：平成7年4月 規模等：土地958㎡ 建物4,187㎡</p>	

<p>名称：総合学術博物館 目的：学内共同教育研究施設として、学術標本資料の収蔵、展示、公開及び教育研究の支援を行うとともに、学術標本資料の収集、活用、解析、情報化及び、博物館活動を推進するために必要な事項調査研究及び業務を目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-20 設置年月：平成14年4月 規模等：土地793㎡ 建物2,378㎡</p>	
<p>名称：キャンパスライフ健康支援・相談センター 目的：保健管理、相談支援及びハラスメント相談に関する専門的な業務、調査及び研究を行い、本学における学生及び職員の心身の健康教育並びに健康の保持及び増進を図るとともに、すべての学生の多面的成長を促すことを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-17 設置年月：令和3年11月 規模等：土地1,960㎡ 建物3,714㎡ (注) 土地は吹田、豊中、箕面地区のキャンパスライフ健康支援・相談センターの面積。</p>	
<p>名称：数理・データ科学教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、学内外の組織及び研究者と連携することにより、数理・データ科学技術に精通した金融・保険数理、数理モデル及びデータ科学分野の研究者及び実務家の養成を図り、当該学際融合分野の研究交流を推進するとともに、全学を対象とした学部教育を提供し、もって数理・データ科学に係る教育強化を実現することを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-3 設置年月：平成27年10月 規模等：土地416㎡ 建物1,951㎡ (注) 土地・建物は数理・データ科学教育研究センターを含んだ基礎工学研究科1棟の面積。</p>	
<p>名称：コアファシリティ機構 目的：世界と伍する高い研究パフォーマンスを発揮するための、研究基盤や研究支援体制の整備・強化にあたり、全学的かつ戦略的な企画・統括・調整を行うことを目的とする。科学機器リノベーション・工作支援センターと、低温センターを統合し、統合のシナジー効果を活かした研究支援・人材育成・共創推進を進める。 所在地：(豊中地区) 大阪府豊中市待兼山町1-2 (吹田地区) 大阪府吹田市山田丘2-1 設置年月：令和5年4月 規模等：(豊中地区) 土地441,313㎡ 建物1,332㎡ (吹田地区) 土地997,110㎡ 建物516㎡ (注) 土地はコアファシリティ機構を含んだ各地区の面積。</p>	
<p>名称：日本語日本文化教育センター 目的：外国人留学生等に対する日本語及び日本文化等の教育並びにこれに必要な調査研究を実施するとともに、国際的な教育連携を図り、世界の日本語日本文化教育の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：大阪府箕面市船場東3-5-10 設置年月：昭和29年4月(平成17年4月 現センターへ改称) 規模等：土地1,014㎡ 建物3,959㎡</p>	
<p>名称：エマージングサイエンスデザインR³センター 目的：学内共同教育研究施設として、学内外の組織及び教員・研究者と連携し、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野を基盤として新たに勃興する科学の飛躍的発展のために理工系の横断・連携・融合領域に関する各種R³(リカレント、リスクリング、リトレーニングをいう。)教育研究プログラムを企画し、及び実施するとともに、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に精通した理工系の研究者及び技術者の人材育成を図ることを目的とする。 所在地：大阪府豊中市待兼山町1-3 設置年月：令和4年4月 規模等：土地1,131㎡ 建物7,374㎡ (注) 土地・建物はエマージングサイエンスデザインR³センターを含んだ文理融合型研究棟の面積。</p>	
<p>名称：核物理研究センター 目的：原子核物理学の基礎及び応用研究を行うとともに、国際共同利用・共同研究拠点として国内外の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘10-1 設置年月：昭和46年4月 規模等：土地10,183㎡ 建物17,823㎡</p>	

<p>名 称：D3センター 目 的：本学がデータ駆動型大学たるべく、それを支える基盤的な研究・教育を行うとともに管理運営の助力を行い、また、全学的な支援として、本学の情報基盤の整備、情報化の推進、情報サービスの高度化及びこれらを活用した先進的な教育活動を加速させることを目的とする。また、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)に定める共同利用・共同研究拠点として認定を受けた研究施設として学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点を形成し、わが国の学術・研究基盤の更なる高度化と恒常的な発展・維持に資するものとする。 所在地：大阪府茨木市美穂ヶ丘5-1 設置年月：令和6年10月 規模等：土地4,418㎡ 建物15,657㎡</p>
<p>名 称：免疫学フロンティア研究センター 目 的：免疫学とイメージング技術の融合を通して、免疫系を構成する個々の細胞の特性や相互作用を解析するとともに、免疫細胞動態の制御を基盤とした免疫操作技術を開発し、もって感染症、自己免疫疾患、アレルギー疾患、がんその他の重大な疾患に対する新たな免疫療法の確立を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘3-1 設置年月：平成19年10月 規模等：土地1,508.58㎡ 建物9,067㎡</p>
<p>名 称：大阪大学・日本財団 感染症センター 目 的：大阪大学の英知を集結し、世界に開かれた感染症総合知のハブとして、感染症学・免疫学・感染制御にかかる研究を強力に推進することにより、感染症の脅威から人々の「いのちと暮らし」を守り、社会・経済活動の維持に貢献することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘1-10 設置年月：令和7年2月 規模等：建築面積(土地) 2,510㎡ 延床面積(建物) 17,764㎡</p>

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																		
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 （助手を除く）		
専門教育科目、高度国際性涵養教育科目	（専攻基礎科目） （選択必修科目）	情報科学演習I	1①②	/		2				○		24	24			18		
		情報科学演習II	1③④	/		2				○		24	24			18		
		小計（2科目）	—	—		4				—		24	24			18		
		専攻基礎科目（選択）	情報科学セミナーI	1①②	/		2				○		24	24			18	
		情報科学セミナーII	1③④	/		2					○		24	24			18	
		先端情報科学基礎論I	1①②	/		2				○			2					
		先端情報科学基礎論II	1①②	/		2				○			2					
		先端情報科学基礎論III	1①②	/		2				○			2					
		海外インターンシップM（S）	1通・2通	/		4					○		1					
		海外インターンシップM（L）	1通・2通	/		8					○		1					
	小計（7科目）	—	—		22				—		24	24			18			
	共通科目	英語プレゼンテーション	1①②	/		2				○						1		
		国際融合科学論	1①②	/		2				○						2	オムニバス・共同（一部）	
	小計（2科目）	—	—		4				—						3			
専門教育科目	専攻基礎科目（必修）	情報科学研究Ia	1①②	/		2					○	24	24			18		
		情報科学研究Ib	1③④	/		2					○	24	24			18		
		小計（2科目）	—	—		4				—		24	24			18		
	（専攻基礎科目） （選択必修科目）	インタラクティブ創成工学基礎演習A	1通	/		4					○	2	1			2		
	小計（1科目）	—	—		4				—		2	1			2			
専攻基礎科目（選択）	情報科学研究IIa	2①②	/		2					○	24	24			18			
	情報科学研究IIb	2③④	/		2					○	24	24			18			
	情報科学特別講義I	1①②	/		1				○		2							
	情報科学特別講義II	1③④	/		1				○		2							
	情報科学特別講義III	1①②	/		1				○		2							
	ネットワークデザイン論	1③④	/		2				○		1	1						
	コンピューターネットワーク	1①②	/		2				○			1						
	情報ネットワーク構築論	1①②	/		2				○			1						
	高性能計算機システム運用論	1①②	/		2				○						2			
	アルゴリズム設計論	1③④	/		2				○		1							
	先進情報システム論	1①②	/		2				○		1	1						
	ディペンダブルシステム	1①②	/		2				○		1							
	並列計算論	1①②	/		2				○		1	1						

	組込みシステム設計論	1③④		2	○			1	1				3	
	生体センサ工学	1③④		2	○								1	
	サイバーレジリエンス特論	1③④		2	○								2	
	計算情報数理	1①②		2	○				1					
	意思決定と制御	1①②		2	○			1						
	非線形現象論	1③④		2	○			1	1					
	光情報工学	1③④		2	○			1	1					
	データアナリティクスと大規模言語モデル	1①②		2	○			1					1	
	データ・知識管理	1①②		2	○			1	1					
	先進機械学習論	1①②		2	○			1	1				2	
	データマイニングと時系列解析	1③④		2	○								2	
	合成データ生成論	1①②		2	○			1	1					
	情報セキュリティ	1①②		2	○			1						
	ITコンサルティング	1③④		2	○								1	
	先端AI基礎	1①②		2	○			1						
	先端AI実践	1③④		2	○			1						
	代謝情報工学	1①②		2	○				1					
	バイオ情報計測学	1①②		2	○			1	1					
	先端生物情報融合基礎論	1①②		2	○			1	2				1	
	認知脳科学	1③④		2	○			1						
	生物分子情報解析	1①②		2	○			1						
	バイオネットワーク工学	1①②		2	○			1	1					
	ヒューマンインタフェース設計論	1①②		2	○			1	1					
	人間情報工学論	1③④		2	○			1	1					
	サイバネティックアバター論	1③④		2	○								3	オムニバス
	コンピュータビジョン	1③④		2	○								2	
	パターン認識	1③④		2	○			1						
	マシンビジョン・ロボットビジョン	1③④		2	○				1					
	サイバーフィジカルシステム	1①②		2	○			1	1					
	ソフトウェア開発論	1③④		2	○			1						
	実践ソフトウェア工学	1①②		2	○			1	1					
	国内インターンシップM	1通		2			○	24	24				18	
	小計(45科目)	—	—	87		—		24	24				28	
専攻境界科目	計算数学基礎Ⅰ	1①②		2	○								1	
	計算数学基礎Ⅱ	1③④		2	○								1	
	応用情報数学	1③④		2	○								1	
	情報基礎数学講義	1③④		2	○								1	
	小計(4科目)	—	—	8		—							4	
共通科目	情報技術と倫理	1①②		1	○			1						
	知的財産の基礎	1③④		1	○								2	オムニバス
	情報技術と経済	1①②		2	○			1	1					
	小計(3科目)		—	4		—		2	1				2	
授業科目以外	(研究指導)					—		24	24				21	
	小計	—	—					24	24				21	
合計(66科目)		—	—	4	133	—		24	24				40	
学位又は称号		修士(情報科学)、修士(工学)、修士(理学)		学位又は学科の分野		理学関係、工学関係								

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
本専攻が指定する科目から専攻基礎科目22単位以上を含め、30単位以上を修得し、研究指導を受け、修士論文の審査に合格すること。なお、当該30単位には、専門教育科目22単位、高度国際性涵養教育科目1単位、高度教養教育科目（他研究科開講科目が該当）2単位を含めること。 専攻基礎科目（選択必修）のうち、情報科学演習Ⅰ、情報科学演習Ⅱ、インタラクティブ創成工学基礎演習Aから4単位を選択必修とする。 高度国際性涵養教育科目と専門教育科目の両方の性質を有する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目に優先して充当する。ただし、当該科目の必要単位である1単位を既に充足している場合は、専門教育科目に充当する。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）																				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 （助手を除く）				
専門教育科目、高度国際性涵養教育科目	（専攻基礎科目） 情報科学演習I	1①②	/		2				○		22	22				17				
	情報科学演習II	1③④			2				○		22	22					17			
	小計（2科目）	—		—		4				—		22	22					17		
	専攻基礎科目（選択）	情報科学セミナーI	1①②	/		2				○		22	22					17		
		情報科学セミナーII	1③④			2				○		22	22						17	
		先端情報科学基礎論I	1①②			2				○		2								
		先端情報科学基礎論II	1①②			2				○		2								
		先端情報科学基礎論III	1①②			2				○		2								
		海外インターンシップM（S）	1通・2通			4					○		1							
	海外インターンシップM（L）	1通・2通			8					○		1								
小計（7科目）	—	—	—	22				—		22	22						17			
共通科目	英語プレゼンテーション	1①②	/		2				○									1		
	国際融合科学論	1①②	/		2				○									2	オムニバス・共同（一部）	
小計（2科目）	—	—	—	4				—										3		
専門教育科目	（専攻基礎科目）（必修） 情報科学研究Ia	1①②	/		2				○		22	22						17		
	情報科学研究Ib	1③④			2				○		22	22						17		
	小計（2科目）	—	—	—	4				—		22	22						17		
（専攻基礎科目） （選択必修科目） インタラクティブ創成工学基礎演習A	1通	/		4				○		2	1						2			
小計（1科目）	—	—	—	4				—		2	1						2			
専攻基礎科目（選択）	情報科学研究IIa	2①②	/		2				○		22	22						17		
	情報科学研究IIb	2③④			2				○		22	22						17		
	情報科学特別講義I	1①②			1				○		2									
	情報科学特別講義II	1③④			1				○		2									
	情報科学特別講義III	1①②			1				○		2									
	ネットワークデザイン論	1③④			2				○		1	1								
	コンピューターネットワーク	1①②			2				○			1								
	情報ネットワーク構築論	1①②			2				○			1								
	高性能計算機システム運用論	1①②			2				○										2	
	アルゴリズム設計論	1③④			2				○		1									
	先進情報システム論	1①②			2				○		1	1								
	ディペンダブルシステム	1①②			2				○		1									
	並列計算論	1①②			2				○		1	1								

	組込みシステム設計論	1③④		2	○			1	1				3		
	生体センサ工学	1③④		2	○								1		
	サイバーレジリエンス特論	1③④		2	○								2		
	計算情報数理解	1①②		2	○				1						
	意思決定と制御	1①②		2	○			1							
	非線形現象論	1③④		2	○			1	1						
	光情報工学	1③④		2	○			1	1						
	データアナリティクスと大規模言語モデル	1①②		2	○			1					1		
	データ・知識管理	1①②		2	○			1	1						
	先進機械学習論	1①②		2	○			1	1				2		
	データマイニングと時系列解析	1③④		2	○								2		
	合成データ生成論	1①②		2	○			1	1						
	情報セキュリティ	1①②		2	○			1							
	I Tコンサルティング	1③④		2	○								1		
	先端AI基礎	1①②		2	○			1							
	先端AI実践	1③④		2	○			1							
	代謝情報工学	1①②		2	○					1					
	バイオ情報計測学	1①②		2	○			1	1						
	先端生物情報融合基礎論	1①②		2	○			1	2				1		
	認知脳科学	1③④		2	○			1							
	生物分子情報解析	1①②		2	○			1							
	バイオネットワーク工学	1①②		2	○			1	1						
	ヒューマンインタフェース設計論	1①②		2	○			1	1						
	人間情報工学論	1③④		2	○			1	1						
	サイバネティックアバター論	1③④		2	○								3	オムニバス	
	コンピュータビジョン	1③④		2	○								2		
	パターン認識	1③④		2	○			1							
	マシンビジョン・ロボットビジョン	1③④		2	○					1					
	サイバーフィジカルシステム	1①②		2	○			1	1						
	ソフトウェア開発論	1③④		2	○			1							
	実践ソフトウェア工学	1①②		2	○			1	1						
	国内インターンシップM	1通		2			○	24	24				18		
	小計(45科目)	—	—	87		—		24	24				28		
専攻境界科目	計算数学基礎Ⅰ	1①②		2	○								1		
	計算数学基礎Ⅱ	1③④		2	○								1		
	応用情報数学	1③④		2	○								1		
	情報基礎数学講義	1③④		2	○								1		
	小計(4科目)	—	—	8		—							4		
共通科目	情報技術と倫理	1①②		1	○			1							
	知的財産の基礎	1③④		1	○								2	オムニバス	
	情報技術と経済	1①②		2	○			1	1						
	小計(3科目)	—	—	4		—		2	1				2		
授業科目以外	(研究指導)					—	22	22					20		
	小計	—	—				22	22					20		
合計(66科目)	—	—	4	133		—	24	24					40		
学位又は称号	修士(情報科学)、修士(工学)、修士(理学)		学位又は学科の分野		理学関係、工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
<p>本専攻が指定する科目から専攻基礎科目22単位以上を含め、30単位以上を修得し、研究指導を受け、修士論文の審査に合格すること。なお、当該30単位には、専門教育科目22単位、高度国際性涵養教育科目1単位、高度教養教育科目(他研究科開講科目が該当)2単位を含めること。</p> <p>専攻基礎科目(選択必修)のうち、情報科学演習Ⅰ、情報科学演習Ⅱ、インタラクティブ創成工学基礎演習Aから4単位を選択必修とする。</p> <p>高度国際性涵養教育科目と専門教育科目の両方の性質を有する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目に優先して充当する。ただし、当該科目の必要単位である1単位を既に充足している場合は、専門教育科目に充当する。</p>								1学年の学期区分				4学期			
								1学期の授業期間				8週			
								1時限の授業の標準時間				90分			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
専門教育科目、高度国際性涵養教育科目	情報科学演習I	1①②	/		2				○		2	2				1		
	情報科学演習II	1③④			2				○		2	2					1	
	小計（2科目）	—	—		4				—		2	2					1	
専門教育科目	情報科学セミナーI	1①②	/		2				○		2	2					1	
	情報科学セミナーII	1③④			2				○		2	2					1	
	小計（2科目）	—	—		4				—		2	2					1	
専門教育科目	情報科学研究Ia	1①②	/		2				○		2	2					1	
	情報科学研究Ib	1③④			2				○		2	2					1	
	小計（2科目）	—	—		4				—		2	2					1	
専門教育科目	情報科学研究IIa	2①②	/		2				○		2	2					1	
	情報科学研究IIb	2③④			2				○		2	2					1	
	小計（2科目）	—	—		4				—		2	2					1	
授業科目以外	(研究指導)		/						—		2	2					1	
小計		—	—						—		2	2					1	
合計（8科目）		—	—		4	12			—		2	2					1	
学位又は称号		修士（情報科学）、修士（工学）、修士（理学）			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
本専攻が指定する科目から専攻基礎科目2単位以上を含め、30単位以上を修得し、研究指導を受け、修士論文の審査に合格すること。なお、当該30単位には、専門教育科目22単位、高度国際性涵養教育科目1単位、高度教養教育科目（他研究科開講科目が該当）2単位を含めること。 専攻基礎科目（選択必修）のうち、情報科学演習I、情報科学演習II、インタラクティブ創成工学基礎演習Aから4単位を選択必修とする。 高度国際性涵養教育科目と専門教育科目の両方の性質を有する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目に優先して充当する。ただし、当該科目の必要単位である1単位を既に充足している場合は、専門教育科目に充当する。										1学年の学期区分		4学期						
										1学期の授業期間		8週						
										1時限の授業の標準時間		90分						

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校^{（以下「専門学校」という。）}の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	先端融合科学論	1①②	/		2		○							2	オムニバス・共同（一部）		
	先端生物情報融合論	1①②			2		○			1	2					1	
	情報科学アドバンスセミナーI	1①②			2			○		23	24						18
	情報科学アドバンスセミナーII	1③④			2			○		23	24						18
	インタラクティブ創成工学演習A	1通			4			○		2	1						2
	国内インターンシップD	1通			2				○	23	24						18
	海外インターンシップD（S）	1通・2通			4				○	1							
	海外インターンシップD（L）	1通・2通			8				○	1							
小計（8科目）	—	—		26			—		23	24					22		
授業科目以外	（研究指導）								23	24					21		
	小計	—	—						23	24					21		
合計（8科目）		—	—		26			—		23	24				25		
学位又は称号	博士（情報科学）、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）			学位又は学科の分野				理学関係、工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
上記の科目から4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分			4 学期							
							1 学期の授業期間			8 週							
							1 時限の授業の標準時間			9 0分							

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
新設(情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	先端融合科学論	1①②			2		○							2	オムニバス・共同(一部)
	先端生物情報融合論	1①②			2		○		1	2				1	
	情報科学アドバンストセミナーI	1①②			2			○	21	22				17	
	情報科学アドバンストセミナーII	1③④			2			○	21	22				17	
	インタラクティブ創成工学演習A	1通			4			○	2	1				2	
	国内インターンシップD	1通			2				23	24				18	
	海外インターンシップD(S)	1通・2通			4				1						
	海外インターンシップD(L)	1通・2通			8				1						
小計(8科目)		—	—		26		—		23	24				22	
授業科目以外	(研究指導)								21	22				20	
小計		—	—				—		21	22				20	
合計(8科目)		—	—		26		—		23	24				25	
学位又は称号	博士(情報科学)、博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
上記の科目から4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。							1学年の学期区分			4学期					
							1学期の授業期間			8週					
							1時限の授業の標準時間			90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
新設(情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
専 門 教 育 科 目	情報科学アドバンストセミナーI	1①②	/		2			○		2	2				1	
	情報科学アドバンストセミナーII	1③④			2			○		2	2				1	
	小計(2科目)	—		—	4			—		2	2				1	
授 業 科 目 以 外	(研究指導)		/							2	2				1	
	小計	—	—				—		2	2				1		
合計(2科目)		—	—	4			—		2	2				1		
学位又は称号	博士(情報科学)、博士(工学)、 博士(理学)、博士(学術)			学位又は学科の分野		理学関係、工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
上記の科目から4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分			4 学期						
							1 学期の授業期間			8 週						
							1 時限の授業の標準時間			9 0分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設けし、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

	動的システム学習論	1①②		2	○							4	隔年
	コンカレントシステム	1①②		2	○							1	隔年
	ディペンダブルシステム	1①②		2	○							1	隔年
	情報ネットワーク設計論	1①②		2	○							1	隔年
	モバイルコンピューティング	1①②		2	○							3	隔年
	モバイル通信プロトコル	1③④		2	○							3	隔年
	情報ネットワーク経済学	1①②		2	○							3	
	情報ネットワーク学基礎論	1③④		2	○							8	オムニバス
	ビッグデータ工学	1①②		2	○							2	隔年
	ビッグデータ解析	1①②		2	○							2	隔年
	情報セキュリティ	1①②		2	○							2	隔年
	コンテンツセキュリティ	1①②		2	○							2	隔年
	国際融合科学論※	1①②		2								2	オムニバス
	バイオデータベース工学	1①		2	○							1	
	生物分子情報解析	1①		2	○							1	
	バイオネットワーク工学	1①		2	○							1	隔年
	バイオネットワーク基礎理論	1①②		2	○							2	隔年
	バイオ情報工学入門	1①②		2	○							9	オムニバス
	先端生物情報融合基礎論	1①②		2	○							5	
	海外インターンシップ(M)※	1通		4			○					1	
	海外インターンシップ(L)※	1通		8			○					1	
	小計(29科目)	-	-	66	-							50	
授業科目以外	(研究指導)							5	3				9
	小計	-	-		-			5	3				9
	合計(51科目)	-	-	4	108	-		5	3				60
学位又は称号	修士(情報科学)、修士(工学)、修士(理学)	学位又は学科の分野		理学関係、工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法						授業期間等							
<p>本専攻が指定する科目から専攻基礎科目22単位以上を含め、30単位以上を修得し、研究指導を受け、修士論文の審査に合格すること。なお、当該30単位には、専門教育科目22単位、高度国際性涵養教育科目1単位(科目名の末尾に※を付した科目は高度国際性涵養教育科目の性質を兼ねる)、高度教養教育科目(他研究科開講科目が該当)2単位を含めること。</p> <p>なお、専攻基礎科目(選択必修)のうち、コンピュータサイエンス演習Ⅰ、コンピュータサイエンス演習Ⅱ、インタラクティブ創成工学基礎演習Aから4単位を選択必修とする。</p>						1学年の学期区分		4学期					
						1学期の授業期間		8週					
						1時限の授業の標準時間		90分					
(注)													
<p>1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。</p> <p>2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。</p> <p>3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。</p> <p>4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。</p> <p>5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。</p> <p>6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。</p> <p>7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。</p> <p>8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。</p> <p>9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。</p> <p>10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。</p> <p>(1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。</p> <p>(2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。</p> <p>(3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。</p> <p>11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。</p>													

教 育 課 程 等 の 概 要															
既設（情報科学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	コンピュータサイエンスアドバンスセミナーI	1①②			2			○		5	3			9	オムニバス
	コンピュータサイエンスアドバンスセミナーII	1③④			2			○		5	3			9	
	先端融合科学論	1①②			2			○						2	
	インタラクティブ創成工学演習A	1通			4			○						4	
	先端生物情報融合論	1①②			2			○						5	
	コンピュータサイエンスインターンシップD	1通			2				○	5	3			9	
	海外インターンシップD(S)	1通			4				○					1	
	海外インターンシップD(L)	1通			8				○					1	
小計（8科目）	—	—		26			—		5	3			21		
授業科目以外	（研究指導）								5	3			9		
小計	—	—					—		5	3			9		
合計（8科目）		—	—		26			—		5	3			21	
学位又は称号	博士（情報科学）、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
上記の科目から4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。							1学年の学期区分				4学期				
							1学期の授業期間				8週				
							1時限の授業の標準時間				90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目、高度国際性涵養教育科目	情報科学演習I	/	本科目では、研究を遂行するために必要となる実装能力（研究遂行上必要なアルゴリズム、プログラム、生物実験法、物理実験法等を設計・開発できる能力）の向上を目的として、学生の所属研究室においてコンピュータ上で動作するアルゴリズム、プログラム、生物実験法や物理実験法等の開発技術を習得し、グループによるプロジェクト遂行を通して、プロジェクトマネジメント、実装能力、報告書作成などの能力を養う。具体的な課題については、所属研究室の教員と相談して決定する。	
	情報科学演習II	/	本科目では、研究を遂行するために必要となる実装能力（研究遂行上必要なアルゴリズム、プログラム、生物実験法、物理実験法等を設計・開発できる能力）の向上を目的として、学生の所属研究室においてコンピュータ上で動作するアルゴリズム、プログラム、生物実験法や物理実験法等の開発技術を習得し、グループによるプロジェクト遂行を通して、プロジェクトマネジメント、実装能力、報告書作成などの能力を養う。具体的な課題については、所属研究室の教員と相談して決定する。	
専攻基礎科目（選択）	情報科学セミナーI	/	本科目では、情報科学分野の研究者・技術者として自立するための様々な専門知識や技術を英語文献から習得すること、および課題設定・解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることを目的として、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力向上を中心として、学術的な研究の内容を他者にわかりやすく伝えるための研究発表の方法について学び、所属研究室や他研究室において、自らの研究発表を行う。	
	情報科学セミナーII	/	本科目では、情報科学分野の研究者・技術者として自立するための様々な専門知識や技術を英語文献から習得すること、および課題設定・解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることを目的として、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力向上を中心として、学術的な研究の内容を他者にわかりやすく伝えるための研究発表の方法について学び、所属研究室や他研究室において、自らの研究発表を行う。	
	先端情報科学基礎論I	/	情報科学は、生命科学・数学・数理科学など情報科学の基盤となる分野の成果をシーズとして、関連分野の発展を支え、研究成果を社会に還元することが肝要である。本科目では、未来志向の新しい情報科学の方向性を理解することを目的として、リポートコンピューティングをテーマとした講義を英語で実施する。具体的には、生物工学、代謝工学、神経科学、バイオインフォマティクス、情報通信、人間情報工学、生体情報科学、仮想・拡張現実、デジタルツイン、インタラクション、インタフェース、コンピュータビジョンなどに関する導入的な講義を通じて、これらの技術動向を身につける。	
	先端情報科学基礎論II	/	情報科学は、生命科学・数学・数理科学など情報科学の基盤となる分野の成果をシーズとして、関連分野の発展を支え、研究成果を社会に還元することが肝要である。本科目では、未来志向の新しい情報科学の方向性を理解することを目的として、リポートコンピューティングをテーマとした講義を英語で実施する。具体的には、高度有線・無線通信、セキュリティ、センシングシステム・IoT、高性能計算・デバイス、量子計算などに関する導入的な講義を通じて、これらの技術動向を身につける。	
	先端情報科学基礎論III	/	情報科学は、生命科学・数学・数理科学など情報科学の基盤となる分野の成果をシーズとして、関連分野の発展を支え、研究成果を社会に還元することが肝要である。本科目では、未来志向の新しい情報科学の方向性を理解することを目的として、リポートコンピューティングをテーマとした講義を英語で実施する。具体的には、情報数理学、AI基礎理論、機械学習モデル、ビッグデータ、AI応用システムなどに関する導入的な講義を通じて、これらの技術動向を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻基礎科目、高度国際性涵養教育科目	海外インターンシップM (S)		海外の大学・研究機関に赴き、情報科学分野または他分野との融合科学分野において、本研究科との共同研究を経験することで、情報技術者としての基礎語学力だけでなく国際的視野・バランス感覚を体得する。出発前にガイダンスを実施したのちに、渡航先の研究開発グループと連携し、本研究科と相手先であらかじめ設定する当該分野における共同研究開発・調査課題に取り組む。海外での従事期間は4週間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	
	海外インターンシップM (L)		海外の大学・研究機関に赴き、情報科学分野または他分野との融合科学分野において、本研究科との共同研究を経験することで、情報技術者としての基礎語学力だけでなく国際的視野・バランス感覚を体得する。出発前にガイダンスを実施したのちに、渡航先の研究開発グループと連携し、本研究科と相手先であらかじめ設定する当該分野における共同研究開発・調査課題に取り組む。海外での従事期間は8週間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	
	英語プレゼンテーション		本講義の目的は、国際会議やワークショップに参加するために必要とされる、英語での科学プレゼンテーションの準備と実施ができるようになることである。具体的には、英語でのプレゼンテーションするための様々なスキルと戦略について紹介し、学生自身の最近の研究あるいは選んだ研究トピックをベースにして、英語でのプレゼンテーションの準備を行う能力を涵養するとともに、英語でのプレゼンテーションを学生が自信を持って行える能力を賦与することを目的とした講義のあとに、学生にプレゼンテーションを実施させる。	
	国際融合科学論		情報科学技術は、サイエンスの進展を支える基盤として、その重要性を高めている。本講義では、情報科学および生命科学にまたがる融合分野において最先端で活躍する研究者、技術者を招聘し、その研究開発事例を英語で紹介することで、国内外における生命科学等の異分野と情報科学技術の融合事例を学びつつ、情報技術の重要性および情報技術者としての国際的な視野を育成することを目的とする。また、博士学生による発表を聴講し、英語でのディスカッションを行う。 (オムニバス方式/全15回) (66 Pepper Ferdinand/5回) 複雑系モデリングの理論的背景、複雑ネットワークモデルとその評価、脳機能ネットワークの解析、バイオインスパイアード・ネットワークワーキング原理、複雑系シミュレーションと評価 (67 Leibnitz Kenji Gerald/5回) 科学論文出版：概要、科学論文出版：序論、情報技術の過去の動向、情報技術の将来の動向、科学論文出版：考察と結論 ※下記5回は上記両教員で共同実施 B5Gおよび6Gモバイル通信入門、機械学習I：従来の機械学習、機械学習II：現代的な機械学習、量子力学 I：量子力学入門、量子力学 II：量子機械学習	オムニバス方式・共同（一部）
専門教育科目	専攻基礎科目（必修）			
	情報科学研究Ia		情報科学分野の研究者・技術者として自立するためには様々な専門知識や技術を習得する必要がある。課題設定・解決能力、実装能力（研究遂行上必要なプログラム等を設計・開発できる能力）、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める必要がある。本科目では、専門知識や技術の習得、課題設定・解決能力の向上を中心として、所属研究室において修士論文のための研究活動を各自が行う。具体的な研究課題については、所属研究室の教員と相談して決めていく。	
	情報科学研究Ib		情報科学分野の研究者・技術者として自立するためには様々な専門知識や技術を習得する必要がある。課題設定・解決能力、実装能力（研究遂行上必要なプログラム等を設計・開発できる能力）、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める必要がある。本科目では、専門知識や技術の習得、課題設定・解決能力の向上を中心として、所属研究室において修士論文のための研究活動を各自が行う。具体的な研究課題については、所属研究室の教員と相談して決めていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専攻基礎科目（選択必修）			
	インタラクティブ創成工学基礎演習A		学生自身の自由な着想に基づく「モノづくり」体験の機会を与えることを目的として、本演習では、企画書の作成や作品制作の実践過程で生じた問題の解決（PBL）にグループディスカッションを用いることで、組織的に創造的アイデア・プロジェクトを具現化し世界に通用する形で世に問うことの出来る実践的でグローバルな人材を育成する。制作した作品をInterverse Virtual Reality Challenge（IVRC）等のコンペに実際に応募・出展することを前提とした完成度での作品制作と指導を行う。	
	専攻基礎科目（選択）			
	情報科学研究IIa		情報科学分野の研究者・技術者として自立するためには様々な専門知識や技術を習得する必要がある。課題設定・解決能力、実装能力（研究遂行上必要なプログラム、生物実験法、物理実験法等を設計・開発できる能力）、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める必要がある。本科目では、専門知識や技術の習得、課題設定・解決能力の向上を中心として、所属研究室において修士論文のための研究活動を各自が行う。具体的な研究課題については、所属研究室の教員と相談して決めていく。	
	情報科学研究IIb		情報科学分野の研究者・技術者として自立するためには様々な専門知識や技術を習得する必要がある。課題設定・解決能力、実装能力（研究遂行上必要なプログラム、生物実験法、物理実験法等を設計・開発できる能力）、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める必要がある。本科目では、専門知識や技術の習得、課題設定・解決能力の向上を中心として、所属研究室において修士論文のための研究活動を各自が行う。具体的な研究課題については、所属研究室の教員と相談して決めていく。	
	情報科学特別講義I		情報科学に関する最先端の研究動向・技術動向を身につけることを目的として、その基礎となる背景とその利用動向について、基幹企業や研究機関から外部講師を招へいし、それぞれの研究開発状況をもとに講義する。具体的なテーマとして、脳波計測の基礎と応用、ものを立体的に見る脳の仕組みとその文脈依存性、ヒト運動学習の科学、言語心理学入門、生成モデルの基礎と応用、LLMと対話システム、光と照明の世界などを取り上げ、レポート課題を課す。また、産業界とのシンポジウムに参加することで、社会人との意見交換を通じて自身の研究活動に役立てる。	
情報科学特別講義II		情報科学に関する最先端の研究動向・技術動向を身につけることを目的として、その基礎となる背景とその利用動向について、基幹企業や研究機関から外部講師を招へいし、それぞれの研究開発状況をもとに講義する。具体的なテーマとして、コンシューマーエレクトロニクスを中心とした最先端の研究動向・技術動向、情報通信を中心とした最先端の研究動向・技術動向、バイオ情報などを中心とした最先端の研究動向・技術動向を取り上げ、レポート課題を課す。また、産業界とのシンポジウムに参加することで、社会人との意見交換を通じて自身の研究活動に役立てる。		
情報科学特別講義III		情報科学に関する最先端の研究動向・技術動向を身につけることを目的として、その基礎となる背景とその利用動向について、基幹企業や研究機関から外部講師を招へいし、それぞれの研究開発状況をもとに講義する。具体的なテーマとして、情報家電産業、鉄鋼業、物流生産の分野におけるシステム化および最適化、最先端のデータ科学・AI技術を取り上げ、レポート課題を課す。また、産業界とのシンポジウムに参加することで、社会人との意見交換を通じて自身の研究活動に役立てる。		

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専攻基礎科目（選択）	ネットワークデザイン論		ネットワークシステムおよびインターネットのデザインについて、その過去からの進化や現在これらを取り巻く状況について概説する。そして、その未来に向けて関連するBeyond 5G/6Gやデジタルツインといった最新技術動向について解説し、未来のネットワークの姿についてのディスカッションを行う。 また、これらの基盤となる高速ネットワークを実現する技術として、光波長多重（WDM）による物理レイヤの高速化、ルータの高性能化、さらには高速化に対応したTCPプロトコルについて解説する。その応用例としてデータセンターネットワークを取り上げ、MapReduceなどの分散処理アルゴリズムを紹介し、それに適したネットワーク構造やプロトコルを解説する。さらに、機械学習の基盤となるGPUを前提としたデータセンター設計について、GPU間での並列処理アルゴリズムを踏まえつつ、近年のデータセンターネットワーク設計を考察する。最後に、将来の計算基盤として注目されるDisaggregated Computingと、その実現におけるネットワークの役割について議論する。	
	コンピューターネットワーク		情報通信の基盤を成すコンピューターネットワーク技術について、研究や高度な開発に活用できる知識と技能の獲得を目的とし、TCP/IPプロトコルの詳細からネットワークセキュリティ、5G/6Gモバイルネットワーク、さらにはネットワーク内コンピューティング技術まで、先端分野を体系的に学ぶ。具体的には、IPルーティングやフォワーディングといったルータを構成するプロトコル技術、CUBIC以降の高度な輻輳制御方式、TLSなどの基礎的セキュリティプロトコルとその理解に不可欠な暗号技術、TorやSchnorrプロトコルといった応用プロトコル、6Gを含むモバイルネットワーク、そしてネットワーク内コンピューティングやプログラマブルデータプレーン技術を扱う。授業は講義、論文読解、プロトコル実装演習を組み合わせ、理論的理解と実践的能力の双方を強化する。	
	情報ネットワーク構築論		「情報ネットワーク構築論」では、L1からL7までの通信階層を体系的に理解し、次世代ネットワークの構築方法を学ぶ。特に5G/6G、Wi-Fiをはじめとするワイヤレスネットワークを中心に、IoT・XR・VR・クラウドゲーミング、ロボットやドローンなど多様な応用を支えるネットワークの構築手法を探究する。さらに、ソフトウェア無線、vRAN・0-RANなどの仮想化・分散型無線アクセス技術、エッジAIとの連携、統合センシング通信（ISAC）など将来の展望も扱う。理論と事例を結びつけながら、柔軟で高効率なネットワークを理解し、最先端応用に対応可能な構築力を育成することを目的とする。	
	高性能計算機システム運用論		現代社会では、クラウド、スーパーコンピュータシステム、エッジコンピュータ等の多様な計算資源がネットワークに接続され、情報基盤システムが構築・運用されている。本講義では、クラウドやスーパーコンピュータ等の高性能計算機システムに主眼をあて、当該システムの構成要素（プロセッサ、相互結合網、アクセラレータ等）の基礎知識を習得する。加えて、これらの構成要素がどのような思想に基づいて設計・実装されているかを理解する。さらに、実アプリケーション事例を踏まえながら、このような高性能計算機システムが現代社会の情報基盤システムにおいてどのような役割を担うかを理解する。その上で、当該システムを安定的に運用するための技術・技法・課題についてを学ぶ。	
	アルゴリズム設計論		計算機で扱うデータ量が飛躍的に増大し、実用的な時間で処理を完了するために、効率のよいアルゴリズムの必要性がますます高まっている。本講義では、問題固有の難しさ、および、効率的なアルゴリズムを設計するためのいくつかの設計パラダイムについて学び、多くの問題に対して効率のよいアルゴリズムを設計できる力を身につける。また、現実に直面する問題には、実用的な時間で解けそうにないものが多いことが知られているが、それらに対する現実的な解法を修得する。	
	先進情報システム論		現代社会の高度情報化に寄与している先進の情報システムの基盤要素技術について理解し、その設計方法論の習得を目指す。情報処理、情報通信、情報計測、情報保護システムを題材として、これらが果たすべき役割や機能を俯瞰し、各システムにおける要素技術について理解を深める。また、各システムの実際の設計事例について、必要要件を満たすためのシステム構成の設計手法を詳細に解説し、次世代システムの設計方法論の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専攻基礎科目（選択）	ディメンダブルシステム		高い信頼性を持つ情報システムをディメンダブルシステムと呼ぶ。本科目では、そのようなディメンダブルシステムを設計・実現するために必要な原理や技術について学ぶ。まず、ディメンダビリティの基礎概念を、関連する用語とともに学ぶ。次に、ディメンダブルシステムの実現において重要なフォールトトレランスに関して、種々の実現技術と、信頼性評価手法について学習する。また、形式検証手法やソフトウェアテストなどの、設計やプログラムの誤りを検出するための手法についても学ぶ。	
	並列計算論		本講義では、時間計算量の多い大規模問題を現実的な時間で解くための並列計算論を扱う。講義を通じて、並列計算機の構成と並列計算の理論を学習し、並列時間計算量(parallel time complexity)と総仕事計算量(work complexity)の観点から並列計算の効率性について理解する。また、演習を通じて、共有メモリ計算機・分散メモリ計算機・GPU (Graphics Processing Unit) 上で動作する並列プログラムの開発を実践する。	
	組込みシステム設計論		家電製品や自動車など特定機器に組み込まれ、その機器の特定の機能を実現するコンピュータシステムを組込みシステムと呼ぶ。組込みシステムには厳しい設計制約が課されるため、所望の機能を最低限のコストで実現することが求められる。本講義では、組込みシステムのハードウェアからソフトウェアに至る基礎について概説するとともに、その設計手法についても解説する。また、画像や通信などの応用事例などについて紹介するとともに、企業における最新の取り組みや技術動向についても紹介する。	
	生体センサ工学		本講義では、生体情報を計測・解析するためのセンサ技術を体系的に学ぶ。まず、実空間における各種センサの役割と構成要素、信号取得回路、データ処理アルゴリズムなどハードウェアおよびソフトウェア両面の基礎を理解する。さらに、ワイヤレス化によるウェアラブル・生体センサの原理と応用技術を扱い、通信方式や低消費電力設計についても学ぶ。加えて、これらの技術を基盤としたデジタルヘルスケア・リモートモニタリングシステムの最新動向と将来展望を紹介する。	
	サイバーレジリエンス特論		サイバーセキュリティの世界は防御（ディフェンス）から攻撃（オフエンズ）の視点が重要になりつつある。これは攻撃者になることが目的ではなく攻撃者の視点で防御技術を学ばなければ今後遭遇しうる未知なるサイバー攻撃に対処できなくなる時代に突入する。本講義では、最新のサイバー攻撃を紹介し、どのように脆弱性が狙われたのかを概観する。また世界のテイクダウン事例なども取り上げ、国際的なサイバー犯罪に対する取り組みや警察の関わりなども紹介する。そして事業継続性（BCP）の観点から、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）を取り上げ、医療機関でのサイバー攻撃を事例にIT-BCPおよび組織BCPの考え方について理解する。	
	計算情報数理		あらかじめ定められた形式の入力に対して、適切な出力を計算する方法をアルゴリズムと呼ぶ。最適化や変換、教養上げ・列挙など、様々な問題が考えられるが、同じ問題であってもアルゴリズムによってその計算の手間は大きく異なる。巨大なデータをリアルタイムに扱いたい場面が増えている現代では、そのようなアルゴリズムの効率は非常に重要である。本講義では、効率的なアルゴリズムと問題の難しさ、その背後にある性質や構造に関して、基礎的な概念から最新の話題の一端を学ぶ。	
	意思決定と制御		本講義「意思決定と制御」では、不確実性を含む環境下での合理的な行動決定と制御設計を目的に、ロバスト最適化およびロバスト制御の基礎理論を概説する。特に、線形行列不等式（LMI）を用いた問題の定式化を核として、不確かなシステムの表現方法、安定性解析、性能保証を考慮した制御器設計などを体系的に学ぶ。また、不確かさの下での最適化を効率的に実現するアルゴリズムや数値的手法にも触れ、理論を実際のシステム設計や意思決定問題に応用できる力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専攻基礎科目（選択）	非線形現象論		本講義では、現実世界に現れる様々な非線形現象を数理的に扱うための包括的体系である非線形力学系について学ぶ。まず、典型的な動的ふるまい（平衡点・周期軌道・カオス）やその転換点を理解するための基礎理論を解説する。発展的な話題として、ニューロンやタンパク質等の非線形ふるまいに潜む低次元構造を的確に捉え、複雑な時間発展システムを解析・解釈するための方法論を、理論（中心多様体・位相縮約）およびデータ駆動（時間遅れ理め込みやクープマン解析）の両面で習得する。	
	光情報工学		光の物理的特性を利用した情報技術は、さまざまな情報を取得、処理、活用することが必要な超スマート社会で重要な役割を果たす。本講義では、情報工学的視点から光の性質と技術を理解するとともに、光情報システムを設計・実現するための基本的な考え方について学ぶ。波動としての光と線形システムとの関係を利用したフーリエ光学、光波の記録と再生を実現するホログラフィなどの基礎概念を解説する。また、光を用いた計測、コンピューティング、可視化などの具体的を通して光情報システムの仕組みを概説する。	
	データアナリティクスと大規模言語モデル		本講義では、データアナリティクスと大規模言語モデル（LLM）の基礎から最新応用までを体系的に扱う。前半では、データ収集から前処理、統計解析や機械学習を含む従来型アナリティクスを整理し、可視化や意思決定支援への展開を示す。後半では、近年急速に進化するLLMの仕組みと応用を取り上げる。特に、表形式データ処理への適用、複数LLMエージェント間の協調行動の発見、ローカルLLMを活用したデータ前処理の効率化など、最新研究事例を紹介する。また、マルチエージェントLLMシステムに内在するセキュリティ課題や、社会シミュレーション・都市モビリティ生成におけるLLMエージェント利用の可能性と制約も議論する。これにより、データアナリティクスとLLMが相互補完的に新しい知見や実社会応用を拓く姿を俯瞰する。本講義は演習を伴わず、理論と研究事例を中心に構成される。	
	データ・知識管理		本講義では、多種多様なデータを想定したビッグデータ解析技術と人工知能技術について最近の研究動向を含めて概説する。特に、多次元のビッグデータからデータの特徴や特定の条件を満たす上位のデータを高速に見出すデータマイニング・検索技術や、異なるサービスが生成するマルチモーダルデータを統合してユーザの行動予測する深層学習技術、SNSデータから抽出したイベント・トレンド・思想などの情報を活用して行動予測の精度を高める深層学習技術などを紹介する。	
	先進機械学習論		本講義では、統計的機械学習の基礎的な理論や定式化（予測の損失関数最小化としての一般的な定式化や汎化誤差の評価など）といった数理的側面から、これを具体的に計算機で実行するための主要な機械学習のモデルやアルゴリズムについて概説する。また、深層学習や表現学習の最近の話題や物理現象のシミュレーションモデルの学習、特徴抽出の動力学を利用した機械学習モデルなど、当領域における最近の発展的課題についてもふれながら、主要な方法的な概念、技術要素について学ぶ。	
	データマイニングと時系列解析		本講義では、データマイニングに関する基礎的な理論とアルゴリズムを体系的に扱う。データ解析に関する基礎的な要素技術について理解を深め、そして時系列解析における探索、分類、特徴抽出、モデル学習、予測、外れ値検出について学ぶ。さらに、潜在的トレンドや時系列パターン抽出、増え続けるビッグデータを扱うデータストリーム解析、多属性データのためのテンソル解析、非線形動的システムによる時系列ダイナミクスの表現など、時系列ビッグデータ解析の最新動向を概説するとともに、製造業DX、産業IoT、医療AIなど、最新技術の実用化と社会実装について実例とともに紹介する。	
	合成データ生成論		本講義では、合成データを生成するための方法論と活用事例を体系的に学ぶことを目的とする。生成AI手法や探索的最適化技術による合成手法における基礎的な定式化や主要なモデルについて講義する。さらに、合成データ生成の主な活用分野として、人を含めたデジタルソウインを構築するための合成人口データとその社会シミュレーションにおける適用事例、望ましい効用をもつ新薬を開発するための創薬分野における適用事例をとりあげ、最新の技術要素について講義する。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻基礎科目（選択）	情報セキュリティ		本講義では、暗号を中心とした情報セキュリティの理論的基盤とその応用技術を体系的に理解することを目的とする。まず、共通鍵暗号、ハッシュ関数、公開鍵暗号、電子署名などの代表的な暗号技術を取り上げ、それぞれが提供する安全性の概念、典型的なアルゴリズム、さらにそれらを評価するための数学的手法について講義する。次に、これらの暗号要素を組み合わせて構築される暗号プロトコルの基礎を学び、情報セキュリティ全体における暗号の役割と位置づけを明確にする。さらに、暗号の実用化に不可欠な実装技術や、それに対する実装攻撃についても基礎的な理解を深め、理論と実装の両面から暗号を利用する方法を講義する。	
	ITコンサルティング		現代社会においてIT技術の活用は必要不可欠あり、その巧拙が組織の成果に直結する。一方で最新のIT技術を理解し、活用する方策について学べる機会は少ないのが実態である。 本講義は、コンサルティング会社・システムインテグレータの実務家と連携し、課題解決手法、ビジネスフレームワーク、ITソリューションを理解し、自らの課題解決提案を提案書という形でまとめ、実社会のケースを用いてIT技術で課題解決が出来る即戦力人材育成を目指す。	
	先端AI基礎		本講義では、講義「先端AI実践」と併せて、AIの基礎技術から応用技術に至る知識を獲得することに加えて、最新研究をいち早く理解し、再現できる高い実践能力を獲得することを目指す。基礎編となる本講義では、まず、過去のAIブームの変遷や古典的なアプローチによる伝統的AIについて学ぶ。その後、深層学習やその応用技術、Transformerや大規模言語モデルなどの最新のAI技術まで、基礎的かつ広範な知識を学ぶ。	
	先端AI実践		本講義では、講義「先端AI基礎」と併せて、AIの基礎技術から応用技術に至る知識を獲得することに加えて、最新研究をいち早く理解し、再現できる高い実践能力を獲得することを旨とする。実践編となる本講義では、最先端の多様なAI研究を理解したうえで、短時間で実装できるレベルの高い実践能力を獲得することを目的とする。そのために、最新の研究論文の読み方について学び、実践演習を通じて考案技術の実装・動作確認・検証を行うノウハウを学ぶ。	
	代謝情報工学		本講義では、生物の有する代謝反応のネットワーク（代謝経路）について、その役割や働きを概説し、細胞内における代謝経路の働きを同位体標識技術に基づいて実験的に観察する方法、物質収支に基づく数理モデルを使ってシミュレーションによって解析する方法、速度論モデルを利用して感度解析を行う方法について、具体例を交えて説明する。これらの例を通じて非線形最小二乗法、線形計画法、非定常最適化法など、生命システムを最適化、解析する情報科学手法を理解し、工業有用生物を育種するための体系的な遺伝子改変方法や、バイオプロセスデザインについて学ぶ。	
	バイオ情報計測学		本講義では生体中の代謝物、タンパク質量を測定し、得られた測定値を用いて生体システムの特性的解明や、計算機中で再現するための方法論を学ぶ。また、主に生物学を履修してきた学生を対象に測定値を解析する基礎的な情報科学的手法を身に付けることも目的としている。講義では、生体中の代謝物、タンパク質量を測定する機器分析法の原理を学び、得られた測定値を取り扱う基礎知識を習得する。また、代謝物、タンパク質量の多次元の測定データを解釈するための次元圧縮法や、有意差検定法の実習を行い、生命現象における情報科学的手法の役割や意味について議論する。さらに、生体中の代謝システムを計算機中で再現する原理を学び、実際にシミュレーションの実習を行うことで、代謝システムを改変し、工学的に応用するための演習を行う。	
	先端生物情報融合基礎論		生物学と情報科学の融合した新しい領域で活躍できる素養を身につけることを目的として、実際にヒトの細胞からDNAを取り出し遺伝子配列を解析するところから、バイオインフォマティクスの基礎的な解析までを通しての実習を行う。実際の生物学の現場で行われている研究を体験し、生命現象における情報の役割や意味について議論する。具体的には、飲酒後にアルコールを分解する過程で働く酵素であるALDH2の遺伝子配列を解読し、この酵素が活性型であるか否かを調べる。これにより、その個体が酒に強いタイプかどうかをある程度調べることが出来る。またALDH2を例として、一般的なバイオインフォマティクスの解析の演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専攻基礎科目（選択）	認知脳科学		本講義では、人間の認知機能がどのように脳によって実現されているのかを体系的に学ぶ。視覚・聴覚・触覚といった基本的な感覚処理から、記憶、注意、意思決定などの中核的機能、さらには社会性やコミュニケーションといった高次認知に至るまでを対象とする。脳神経ネットワークと情報処理システムの仕組みを理解し、脳科学と情報科学の融合的視点から、人間の心の働きを探究する力を養うことを目的とする。	
	生物分子情報解析		本授業は、バイオインフォマティクス（生物情報学）の基礎と応用を学ぶことを目的とする。生物学的・生命科学的なデータ、とりわけ分子レベルの情報を対象に、情報科学技術を駆使して解析する方法を体系的に理解する。単にアルゴリズムの説明にとどまらず、実際のデータを用いて計算機上で解析を実行できる能力を身につけることを重視する。対象とする主な生物分子情報は、ゲノム配列、遺伝子発現、顕微鏡画像などであり、これらを通じて生命現象の理解に寄与する解析手法を習得する。	
	バイオネットワーク工学		生体、脳、生物の仕組みを知り、応用するバイオ情報通信技術について講義する。特に、ホタルの発光同期、アリの採餌行動、コロニー内の役割分担、群の形成などの生物における自己組織化現象やゲーム理論について、その数理モデルや情報通信技術への応用について解説する。また、講義内容に沿った課題を与え、学生が自身の考えを他者に説明、議論するグループディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、本講義や関連分野のより深い理解を促す。	
	ヒューマンインタフェース設計論		情報システムと人間の関係について、人間的側面と技術的側面の両面からの基礎的な考え方、ユーザインタフェースの設計方法、評価方法について講義する。特に先進的インタフェースの例として、三次元ユーザインタフェース、バーチャルリアリティ、拡張現実感の応用と関連する基礎技術についても講述する。受講者は講義期間内で各1回程度、割り当てられた論文を精読して発表資料を準備し、論文を紹介する。また、紹介した論文について受講生で相互に討論を行う。	
	人間情報工学論		人間情報工学では、人間が感覚器を通して世界を受容し、運動により外界に働きかける過程をシステムとして理解することで、ヒューマンインタフェース設計への工学的応用を目指している。この学問領域はサイバネティクスを源流としており、人間をシステムとして理解するため、神経生理学、脳科学、知覚心理学、信号処理、信号解析、運動学などの多くの学問分野にまたがる。本講義では、これらの学問領域を基礎とし、バーチャルリアリティ、メタバース、AI、機械学習などの人間-機械間インタフェースの先端技術について、文献調査とプレゼンテーションを中心に、ディベート形式で議論を進める形で学習と理解を深める。	
	サイバネティックアバター論		（概要）マルチメディアエージェントとは、様々なモダリティを利用して人と接し、情動的、物理的に人を支援するエージェントのことを指す。このようなエージェントを実現するためのコア技術に関して、工学的側面だけではなく、認知科学的側面などから学際的に講義する。マルチメディアエージェントとしてのロボットの基本構成、機械的な構造、制御方法などを、実際に簡単なロボットを組み立てながら習得し、人とのインタラクションを実現するための基礎知識を習得し、最新の研究開発動向についても把握する。 （オムニバス方式／全15回） （62 萩田紀博／下記内容を2回に分けて講義） サイバネティックアバター論、概論 （63 宮下敬宏／下記内容を3回に分けて講義） サイバネティックアバターおよびロボットの工学的な構築方法、教材を活用したロボット （80 佐竹 聡／下記内容を10回に分けて講義） ネットワークエージェント・ネットワークロボット技術、マルチメディアエージェントにおけるセンシング・アクチュエーション技術、環境知能、ヒューマンロボットインタラクション、サイバネティックアバターおよびロボットの認知科学的側面、HRI的側面について	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻 教育科目 （選択）	コンピュータビジョン		コンピュータビジョンは、人が持つ視覚機能をコンピュータで実現することを旨とする研究分野であり、機械学習（深層学習）とも密接に関係する。本講義はコンピュータビジョン分野の基本的な技術に関する理解を深めることを目的とし、一部演習を交えつつ基本的な技術を概観する。コンピュータビジョンの基礎であるピンホールカメラモデルやキャリブレーションをはじめとし、画像から3次元形状を復元する手法やそれら応用について習得する。さらに、コンピュータビジョンに関連する機械学習の基礎から最近の手法まで解説する。	
	パターン認識		パターン認識とは、画像や音声等のデータから規則性や構造を見出すことを目的とする学問であり、データを中心として機械学習のアルゴリズムを論じる。画像や映像の意味理解に関連する話題を中心とし、自然言語処理との関連についても概観する。近年のパターン認識における技術的基礎である深層学習の基礎的な知識を獲得するとともに、Transformer等の最先端の研究にも触れることにより、パターン認識に関する幅広い知識を獲得することを目標とする。	
	マシンビジョン・ロボットビジョン		本講義は、視覚情報処理を計算機科学的な見地から理解し、必要な基礎知識を習得するとともに、問題解決能力を養うことを目的とする。マシンビジョン・ロボットビジョン及び視覚情報処理に関して広い知識を得ることと、実世界と画像の関連を理解し、計算機を用いて画像から実世界情報を獲得する技術を習得することを目標とする。特に、3次元および時間からなる実世界を認識するために必須となる画像の表現手法や最適化手法および、3次元形状の復元、時間変化の解析、機械学習の応用について習得する。	
	サイバーフィジカルシステム		本講義では、現実世界のデータを収集・分析し、その結果を再び現実世界に反映させるサイバーフィジカルシステム（CPS）の概念と、それを構成する要素技術について概観する。具体的には、センシング、AI、通信、コンピュータビジョン、フィードバックといった要素を取り上げ、基礎技術に加えて応用事例や最新の研究動向も紹介する。これにより、CPSの全体像と社会における意義を理解することを目標とする。また、センシングなど一部の要素技術について演習を行い、実際にCPSを構築する上で必要となる基礎的なスキルの習得を図る。	
	ソフトウェア開発論		ソフトウェア開発プロセスにおいて実施される各種開発作業の基礎技術を体系的に学ぶ。具体的には、開発プロセスを定義するための手法として、様々な記述言語や図表の活用方法を取り上げ、さらに実施されたプロセスの評価・分析手法についても理解を深める。また、オープンソースソフトウェア開発に対するデータ駆動型の分析技術、プログラム中のバグを自動的に特定・修正するための先端的な自動化手法、さらには企業におけるビッグデータや組込ソフトウェアの実用例などを通じて、実社会での応用を意識した実践的な知識と技術を修得することを目的とする。	
	実践ソフトウェア工学		近年、ソフトウェアは社会基盤として不可欠である一方、高度化・大規模化・複雑化が進み、生産性向上と品質確保が重要な課題となっている。本授業では典型的な開発工程である要求分析、設計、実装、テスト、保守・運用を対象に、理論と実践を体系的に学ぶ。上流工程では、主に、仕様書作成の基盤となる提案依頼書の作成・評価方法や、業務要求、技術要求、環境要求、見積り手法を扱う。下流工程では、主に、プログラミングやテストに加え、版管理システム、ビルドツール、継続的インテグレーションなどの自動化技術を取り上げ、モダンなソフトウェア開発の実践力を養うことを目的とする。	
	国内インターンシップM		本科目では、企業、研究機関、公的機関、地方自治体等での就業体験を通して、将来の職業選択における自らの適性・能力を考える契機として役立てることを目的として、参加学生が学問・研究に関連した知識を身につけるとともに、知識を整理する能力を身につける。学生自身が探してきた企業や情報科学研究科が斡旋する企業などへのインターンシップ活動を通じて、情報科学分野に関する最新の研究動向や実社会の技術動向、基礎専門知識を習得し、研究遂行のための多様なノウハウを身につける。インターンシップ実習は90時間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専攻 境界 科目			
	計算数学基礎Ⅰ		基本的なサーバクライアントシステム、情報システムの設計や管理などを行うことを目指し、その上で必要な基礎概念として重要な文字列処理を中心としたデータベース処理および情報検索の方法論の基礎を学ぶ。そのために、Unix系OSを活用するために必須であるような基礎的な知識・技能を文字列処理を中心に、学ぶ機会の少ないコマンドラインオペレーションを意識して用いて、実際にコンピュータを用いた演習を通じて身につける。	
	計算数学基礎Ⅱ		ネットワークを構成する計算機システムを円滑に管理・運用するために必要な知識・技能を身につけることを目的とする。研究室などにおいて数人から数十人程度の研究者が共用する計算機システムを管理運用する必要が生じることを想定して、Unix系のOSを利用する計算機システムの構築等の実習を行い円滑な運用に必要な技能を身につける。また、構築したシステムを利用した様々な形でのレポートの作成・提出等を通して、各種の通信手段を用いたコミュニケーションの特色についても理解することをめざす。	
	応用情報数学		数学の重要な応用例の一つに数値流体計算がある。数値流体計算は、数学解析だけでは十分に把握できない解構造を理解するうえで、数学的にも工学的にも重要である。本計画では、具体的にソフトウェアの利用方法を学習し、実際に数値流体計算を実行する。その過程で、従来の漸近解析により把握しやすい長期的挙動に加え、数学解析では捉えにくい中間時刻での解構造を可視化することを目的とする。これにより、時間発展型偏微分方程式の解構造を初期時刻から長期時刻に至るまで一貫して考察・理解する手法を身につけ、可視化を通じて得られる情報を数学解析に還元する道筋を修得する。	
	情報基礎数学講義		本講義では、データサイエンスにおける微分方程式の数値計算法について解説する。まず、常微分方程式に対する数値計算法の基礎理論を扱い、ルンゲ・クッタ法などの基本的な手法から出発して、構造保存数値解法などの最先端の理論にも触れる。続いて、随伴法、動的低ランク近似、連続最適化、モデル縮減、不確実性定量化といったトピックを取り上げ、データサイエンスにおける微分方程式の役割や、各トピックの性質に応じた数値計算法を学習する。	
共通 科目	情報技術と倫理		情報技術と社会との関わりにおける諸問題を、特に倫理との関わりにおいて述べる。また、情報技術に関わる職業に従事する者もつべき倫理観についても述べる。具体的には、ビジネス分野、ヒューマンエラーとユーザインタフェース、情報端末への物理攻撃、ディペンダビリティ工学、インターネットの文化的歴史、ビッグデータ、人工知能、オーナーシップなどにおける情報倫理の問題について講義やグループディスカッションを通じて学ぶ。	
	知的財産の基礎		<p>本科目では、研究成果を社会に適切に普及させるためのツールとしての知的財産制度の基礎を、複数の組織間における研究成果の取扱いを規律するルールとしての知的財産制度の基礎とともに身につけるために、知的財産制度の基本的知識を講義・課題（レポート）・演習により説明する。具体的には、特許制度の概説、ソフトウェア特許、意匠、商標や著作権などについて説明し、先行技術調査の演習、特許出願の演習やグループディスカッションを実施する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （84 向井 秀一／4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許制度概説（1）：特許制度と研究・開発者、特許を受けることができる発明、特許法上の発明について、外国での特許権の取得など ・特許制度概説（2）：研究成果の公表と特許取得の関係、新規性について、進歩性について、新規性喪失の例外など ・先行技術調査：先行技術調査とは、先行技術調査の必要性、先行技術調査の方法、各種調査ツールの紹介、先行調査手法の事例など ・演習（1）先行技術調査演習：J-PlatPatを用いた先行技術調査演習 <p>（85 梶田 剛／4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習（2）ソフトウェアの特許性について：ソフトウェアの発明性、新規性・進歩性に関する事例演習 ・特許制度概説（3）：発明は誰のものか、特許を受ける権利、共同研究、受託研究、職務発明など ・知的財産の利活用：市場の製品と知的財産権の関係、特許権の発生、消滅、効力、特許権の利用と活用、ソフトウェア特許の事例など ・特許制度概説（4）：特許出願の手続、出願に必要な書類、特許請求の範囲の記載、明細書の記載など 	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通科目	情報技術と経済		本科目では、講義を通じて、情報ネットワークと経済学、政策との関連を理解する。具体的には、以下のテーマについて解説する。市場経済のメカニズム (Market Mechanism)、経済システムと厚生 (Economic System and Welfare)、規制経済学 (Regulatory Economics)、情報経済学 (Economics of Telecommunication)、マクロ経済と情報通信 (Macroeconomic perspective)	
	(研究指導)			

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
新設（情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	先端融合科学論		<p>情報科学技術は、サイエンスの進展を支える基盤として、その重要性を高めている。本講義では、情報科学および生命科学にまたがる融合分野において最先端で活躍する研究者、技術者を招聘し、その研究開発事例を英語で紹介することで、国内外における生命科学等の異分野と情報科学技術の融合事例を学びつつ、情報技術の重要性および情報技術者としての国際的な視野を育成することを目的とする。また、自身の発表を英語で実施するとともに、ディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （66 Pepper Ferdinand／5回） 複雑系モデリングの理論的背景、複雑ネットワークモデルとその評価、脳機能ネットワークの解析、バイオインスパイアード・ネットワークワーキング原理、複雑系シミュレーションと評価 （67 Leibnitz Kenji Gerald／5回） 科学論文出版：概要、科学論文出版：序論、情報技術の過去の動向、情報技術の将来の動向、科学論文出版：考察と結論 ※下記5回は共同で実施 B5Gおよび6Gモバイル通信入門、機械学習I：従来の機械学習、機械学習II：現代的な機械学習、量子力学 I：量子力学入門、量子力学II：量子機械学習</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	先端生物情報融合論		<p>生物学と情報科学の融合した新しい領域で活躍できる素養を身につけることを目的として、実際にヒトの細胞からDNAを取り出し遺伝子配列を解析するところから、バイオインフォマティクスの基礎的な解析までを通しての実習を行う。実際の生物学の現場で行われている研究を体験し、生命現象における情報の役割や意味について議論する。具体的には、飲酒後にアルコールを分解する過程で働く酵素であるALDH2の遺伝子配列を解読し、この酵素が活性型であるか否かを調べる。これにより、その個体が酒に強いタイプかどうかをある程度調べることが出来る。またALDH2を例として、一般的なバイオインフォマティクスの解析の演習を行う。</p>	
	情報科学アドバンストセミナーI		<p>本授業では、博士後期課程の学生として、学術的な研究の内容を他者にわかりやすく伝えるための研究発表の方法、論文の書き方、指導方法等について学ぶ。論文紹介や自らの研究発表を行い、さらに他者の研究発表を聴いて議論をすることにより、プレゼンテーション、質問・応答などについて、博士後期課程の学生として相応しい能力を養う。これらの能力をより高めるため、所属研究室における大学院生や学部生に対する指導も行い、独立した研究者・技術者としての素養を涵養する。</p>	
	情報科学アドバンストセミナーII		<p>本授業では、博士後期課程の学生として、学術的な研究の内容を他者にわかりやすく伝えるための研究発表の方法、論文の書き方、指導方法等について学ぶ。論文紹介や自らの研究発表を行い、さらに他者の研究発表を聴いて議論をすることにより、プレゼンテーション、質問・応答などについて、博士後期課程の学生として相応しい能力を養う。これらの能力をより高めるため、所属研究室における大学院生や学部生に対する指導も行い、独立した研究者・技術者としての素養を涵養する。</p>	
	インタラクティブ創成工学演習A		<p>学生自身の自由な着想に基づく「モノづくり」体験の機会を与えることを目的として、本演習では、企画書の作成や作品制作の実践過程で生じた問題の解決（PBL）にグループディスカッションを用いることで、組織的に創造的アイデア・プロジェクトを具現化し世界に通用する形で世に問うことの出来る実践的でグローバルな人材を育成する。制作した作品をInterverse Virtual Reality Challenge (IVRC) 等のコンペに実際に応募・出展することを前提とした完成度での作品制作と指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
新設(情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	国内インターンシップD		本科目では、企業、研究機関、公的機関、地方自治体等での就業体験を通して、将来の職業選択における自らの適性・能力を考える契機として役立てることを目的として、参加学生が学問・研究に関連した知識を身につけるとともに、知識を整理する能力を身につける。学生自身が探してきた企業や情報科学研究科が斡旋する企業などへのインターンシップ活動を通じて、情報科学分野に関する最新の研究動向や実社会の技術動向、基礎専門知識を習得し、研究遂行のための多様なノウハウを身につける。インターンシップ実習は90時間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	
	海外インターンシップD(S)		海外の大学・研究機関に赴き、情報科学分野または他分野との融合科学分野において、本研究科との共同研究を経験することで、情報技術者としての基礎語学力だけでなく国際的視野・バランス感覚を体得する。出発前にガイダンスを実施したのちに、渡航先の研究開発グループと連携し、本研究科と相手先であらかじめ設定する当該分野における共同研究開発・調査課題に取り組む。海外での従事期間は4週間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	
	海外インターンシップD(L)		海外の大学・研究機関に赴き、情報科学分野または他分野との融合科学分野において、本研究科との共同研究を経験することで、情報技術者としての基礎語学力だけでなく国際的視野・バランス感覚を体得する。出発前にガイダンスを実施したのちに、渡航先の研究開発グループと連携し、本研究科と相手先であらかじめ設定する当該分野における共同研究開発・調査課題に取り組む。海外での従事期間は8週間を目安とし、インターンシップ終了後に参加報告書を提出する。	
	(研究指導)			

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

国立大学法人大阪大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪大学				
文学部				
人文学科	165	-	660	
人間科学部		3年次		
人間科学科	137	10	568	
外国語学部		3年次		
外国語学科	580	10	2,340	
法学部		3年次		
法学科	170	10	700	
国際公共政策学科	80	-	320	
経済学部		3年次		
経済・経営学科	220	10	900	
理学部				
数学科	47	-	188	
物理学科	76	-	304	
化学科	77	-	308	
生物科学科	55	-	220	
医学部		2年次		
医学科（6年制）	98	10	623	
保健学科				
看護学専攻	80	-	320	
放射線技術科学専攻	40	-	160	
検査技術科学専攻	40	-	160	
歯学部				
歯学科（6年制）	53	-	318	
薬学部				
薬学科（6年制）	80	-	480	
工学部		3年次		
応用自然科学科	222	3	894	
応用理工学科	248	3	998	
電子情報工学科	190	6	772	
環境・エネルギー工学科	75	-	300	
地球総合工学科	118	-	472	
基礎工学部		3年次		
電子物理科学科	103	-	412	
化学応用科学科	84	-	336	
システム科学科	174	8	712	
情報科学科	101	-	404	
計	3,313	10 3年次 60	13,869	
大阪大学大学院				
人文学研究科				
人文学専攻 (M)	47	-	94	
人文学専攻 (D)	14	-	42	
言語文化学専攻 (M)	32	-	64	
言語文化学専攻 (D)	15	-	45	
外国学専攻 (M)	25	-	50	
外国学専攻 (D)	11	-	33	
日本学専攻 (M)	40	-	80	
日本学専攻 (D)	18	-	54	
芸術学専攻 (M)	17	-	34	
芸術学専攻 (D)	7	-	21	
人間科学研究科				
人間科学専攻 (M)	89	-	178	
人間科学専攻 (D)	42	-	126	
法学研究科				
法学・政治学専攻 (M)	35	-	70	
法学・政治学専攻 (D)	12	-	36	
経済学研究科				
経済学専攻 (M)	55	-	110	
経済学専攻 (D)	20	-	60	
経営学系専攻 (M)	28	-	56	
経営学系専攻 (D)	5	-	15	
理学研究科				
数学専攻 (M)	32	-	64	
数学専攻 (D)	16	-	48	
物理学専攻 (M)	68	-	136	
物理学専攻 (D)	33	-	99	
化学専攻 (M)	60	-	120	
化学専攻 (D)	30	-	90	
生物科学専攻 (M)	54	-	108	
生物科学専攻 (D)	23	-	69	
高分子科学専攻 (M)	24	-	48	
高分子科学専攻 (D)	11	-	33	
宇宙地球科学専攻 (M)	28	-	56	
宇宙地球科学専攻 (D)	13	-	39	
医学系研究科				
医学専攻 (4年制D)	172	-	688	
医科学専攻 (M)	20	-	40	
保健学専攻 (M)	101	-	202	
保健学専攻 (D)	26	-	78	
歯学研究科				
口腔科学専攻 (4年制D)	40	-	160	
薬学研究科				
創成薬学専攻 (M)	15	-	30	
創成薬学専攻 (D)	8	-	24	
医療薬学専攻 (4年制D)	19	-	76	

令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪大学				
文学部				
人文学科	165	-	660	
人間科学部		3年次		
人間科学科	137	10	568	
外国語学部		3年次		
外国語学科	580	10	2,340	
法学部		3年次		
法学科	170	10	700	
国際公共政策学科	80	-	320	
経済学部		3年次		
経済・経営学科	220	10	900	
理学部				
数学科	47	-	188	
物理学科	76	-	304	
化学科	77	-	308	
生物科学科	55	-	220	
医学部		2年次		
医学科（6年制）	95	10	620	定員変更（△3）（令和8年度のみの臨時定員増のため）
保健学科				
看護学専攻	80	-	320	
放射線技術科学専攻	40	-	160	
検査技術科学専攻	40	-	160	
歯学部				
歯学科（6年制）	53	-	318	
薬学部				
薬学科（6年制）	80	-	480	
工学部		3年次		
応用自然科学科	222	3	894	
応用理工学科	248	3	998	
電子情報工学科	190	6	772	
環境・エネルギー工学科	75	-	300	
地球総合工学科	118	-	472	
基礎工学部		3年次		
電子物理科学科	103	-	412	
化学応用科学科	84	-	336	
システム科学科	174	8	712	
情報科学科	101	-	404	
計	3,310	10 3年次 60	13,866	
大阪大学大学院				
人文学研究科				
人文学専攻 (M)	47	-	94	
人文学専攻 (D)	14	-	42	
言語文化学専攻 (M)	32	-	64	
言語文化学専攻 (D)	15	-	45	
外国学専攻 (M)	25	-	50	
外国学専攻 (D)	11	-	33	
日本学専攻 (M)	40	-	80	
日本学専攻 (D)	18	-	54	
芸術学専攻 (M)	17	-	34	
芸術学専攻 (D)	7	-	21	
人間科学研究科				
人間科学専攻 (M)	89	-	178	
人間科学専攻 (D)	42	-	126	
法学研究科				
法学・政治学専攻 (M)	35	-	70	
法学・政治学専攻 (D)	12	-	36	
経済学研究科				
経済学専攻 (M)	55	-	110	
経済学専攻 (D)	20	-	60	
経営学系専攻 (M)	28	-	56	
経営学系専攻 (D)	5	-	15	
理学研究科				
数学専攻 (M)	32	-	64	
数学専攻 (D)	16	-	48	
物理学専攻 (M)	68	-	136	
物理学専攻 (D)	33	-	99	
化学専攻 (M)	60	-	120	
化学専攻 (D)	30	-	90	
生物科学専攻 (M)	54	-	108	
生物科学専攻 (D)	23	-	69	
高分子科学専攻 (M)	24	-	48	
高分子科学専攻 (D)	11	-	33	
宇宙地球科学専攻 (M)	28	-	56	
宇宙地球科学専攻 (D)	13	-	39	
医学系研究科				
医学専攻 (4年制D)	172	-	688	
医科学専攻 (M)	20	-	40	
保健学専攻 (M)	101	-	202	
保健学専攻 (D)	26	-	78	
歯学研究科				
口腔科学専攻 (4年制D)	40	-	160	
薬学研究科				
創成薬学専攻 (M)	15	-	30	
創成薬学専攻 (D)	8	-	24	
医療薬学専攻 (4年制D)	19	-	76	

